市内遺跡 8

－平成 25 年度　埋蔵文化財発掘調査報告書－

2015.3

茅野市教育委員会

市内遺跡 8

—平成 25 年度　埋蔵文化財発掘調査報告書—

2015.3

茅野市教育委員会

序　　文

茅野市は長野県南東部に位置する風光明媚な高原都市です。東に八ヶ岳連峰、西に赤石山脈から続く山脚、北に霧ヶ峰山塊を臨し、霧ヶ峰の南麓からは遠く富士山を望むことができます。

当市には特別史跡尖石遺跡、史跡上ノ段遺跡や藤内遺跡をはじめとする多くの縄文時代の遺跡があり、「縄文の里」として全国にその名を知られています。また、それらの縄文遺跡にかくれがちであった弥生時代から江戸時代の遺跡も、市街地周辺における近年の発掘調査によってその数を増しています。

当市では市内各所で行われる各種開発事業と遺跡の保護・調整を図るために、国庫補助事業による試掘調査ならびに本調査等を進めてきました。その中で平成25年度に実施した39件の調査成果が本報告書にまとめられています。

報告する発掘調査は、いずれも遺跡の一部を対象に行われた小規模なものですが、このような調査を地道に繰り返し行うことで、遺跡の広がりやその性格が解き明かされていくものと期待されます。

最後になりましたが、発掘調査にご理解とご協力を賜りました地権者ならびに事業関係者の皆さま、調査に従事された作業員の皆さまに心からお礼を申し上げます。

平成27年3月

茅野市教育委員会
教育長　牛山英彦

例　言

1　本書は長野県茅野市が平成26年度に国宝重要文化財等保存整備費補助金を受け作成した、平成25年度の各種開発事業に伴う市内遺跡発掘調査報告書である。
2　本書に掲載した遺跡は、平成25年4月1日から平成26年3月31日までに調査した遺跡である。
3　整理作業ならびに報告書作成は、平成26年5月1日から平成27年2月28日に実施した。
4　各遺跡の所在地は本文中に記した。
5　本調査に係わる出土品、諸記録は茅野市尖石縄文考古館で収蔵・保管している。
6　発掘調査から報告書作成までに、長野県教育委員会事務局文化財・生涯学習課、長野県考古学会、諏訪考古学研究会の諸氏からご指導、ご助言を頂いた。記して感謝する次第である。

凡　例

1　遺跡番号に枝番を付してあるものは、茅野市遺跡台帳の枝番であり、発掘届け受け付け順となっているが、本報告においては、実際の調査順としたため、順番が前後するものがある。
2　本書における挿図の縮尺は、挿図中に記している。
2　挿図における遺構の略号は以下のとおりである。
　①1号住居址→1住 ②1号竪穴状遺構→1竪穴 ③1号土坑→1土 など
3　縄文土器の胎土に繊維を含むものについては、断面に網かけを施している。
4　土層断面図のレベルで未記入のものは、現地表面のレベルを基に任意で設定している。

目　次

第1章　市内遺跡発掘調査等事業の概要……1
　第1節　茅野市における埋蔵文化財保護の概要……1
　第2節　平成25年度事業の概要……1
　第3節　調査の体制……1
第2章　試掘調査……5
第3章　市内個人住宅等関連発掘調査……20
抄録

第１章　市内遺跡発掘調査等事業の概要

第１節　茅野市における埋蔵文化財保護の概要

平成 26 年３月現在、茅野市における周知の埋蔵文化財包蔵地（以下、遺跡とする）は 348 箇所である。遺跡内およびその隣接地で開発行為が計画された場合、事業者と市教育委員会との間で埋蔵文化財保護に関わる取り扱いを協議し、試掘調査（確認調査）の実施を基本に埋蔵文化財（遺構・遺物）の有無を確認することにしている。埋蔵文化財が確認された場合、工事の計画変更による遺跡の現状保存を事業者に求めているが、やむを得ず失われる場合には、事業者の協力を得て本調査による記録保存を実施している。

近年の当市における発掘調査等は、区場整備・土地区画整理・幹線道路新設事業などの公共性の高い大規模な開発に伴うものから、宅地造成・集合住宅建築・個人住宅建築工事などの民間・個人が事業者となる小規模な開発に伴うものへ移行している。今後も人口の増加と相まって、このような小規模開発に伴う調査は増加の一途を辿ることが予想される。これに対処するため、市教育委員会では埋蔵文化財の保護・保存に対する理解と協力を得るためのさまざまな事業を展開してきた。平成 18 年度は『遺跡位置図』を掲載した埋蔵文化財の取り扱いに関するリーフレットを市内全戸に配布し、保護・保存に関する啓蒙・普及活動を行った。平成 19 年度は周知の遺跡の範囲を全面的に見直し『遺跡位置図』を改訂した。平成 20 年度は遺跡の位置と内容の周知化をさらに進めるため、『遺跡位置図』ならびに『遺跡台地』を電子化し、茅野市ホームページ上での公開を開始した。また、こうした取り組みにあわせて、平成 19・20 年度には市内の不動産取引業者、土木および建設業者、建築設計業者と埋蔵文化財の取り扱いに関する勉強会を合同で開催し、遺跡の位置や遺跡内で工事を行う際の法的手続きなどを相互で確認した。この他、地域の歴史を直に感じていただく機会として、市民対象の発掘現場の現地説明会を開催している。

平成 23 年度に米沢地区北大塩に所在する国史跡前形遺跡で保存目的のための確認調査を実施したが、平成 24 年度も周縁の調査を実施した。史跡指定地の北側近接地（民有地）を対象に試査を行い、縄文時代中期前半と後期前半の集落の一部を確認した。２ヶ年にわたる確認調査で、史跡指定地から続く縄文集落の範囲や内容が明らかとなり、これまで指摘されてきた「時期により地点を変えながら集落が営まれる」姿をよりはっきりと示せるようになった。こうした調査の成果は、過去の調査成果とあわせて、平成 25 年３月に『前形遺跡確認調査報告書』にまとめたところである。

規模の大きな発掘調査としては、平成 25 年度には、墳内保育園の建て替え工事に伴う家下遺跡の発掘調査が行われた他、永明寺山公園墓地の増設に伴い、新発見の古墳である永明寺山古墳の発掘調査を行っている。

第２節　平成 25 年度事業の概要

平成 25 年度に受理した『土木工事等のための埋蔵文化財発掘の届出書（93 条第１項）』ならびに『土木工事等のための埋蔵文化財発掘の通知書（94 条第１項）』は 72 件である。

この中で平成 25 年度国宝重要文化財等保存整備費事業補助金の「市内遺跡発掘調査等事業」の対象事業は、試掘調査が 11 件、本調査および工事立会が 28 件）、補助対象事業費は 3,616 ,000 円であった。

第３節　調査の体制

発掘調査は茅野市教育委員会事務局 尖石縄文考古館および文化財課が実施した。組織は下記のとおりである。

① 調査主体者　教育長　牛山英彦

② 事　務　局　生涯学習部長　小池神廣（平成 26 年３月 31 日まで）　木川亮一（平成 26 年４月１日から）

③ 尖石縄文考古館（平成 24 年３月 31 日まで）　文化財課（平成 24 年４月１日から）

　　鵜飼幸雄（尖石縄文考古館長・文化財課長 平成 26 年３月 31 日まで）

　　守矢昌文（尖石縄文考古館長・文化財課長 平成 26 年４月１日から　生涯学習係長　平成 26 年３月 31 日まで）

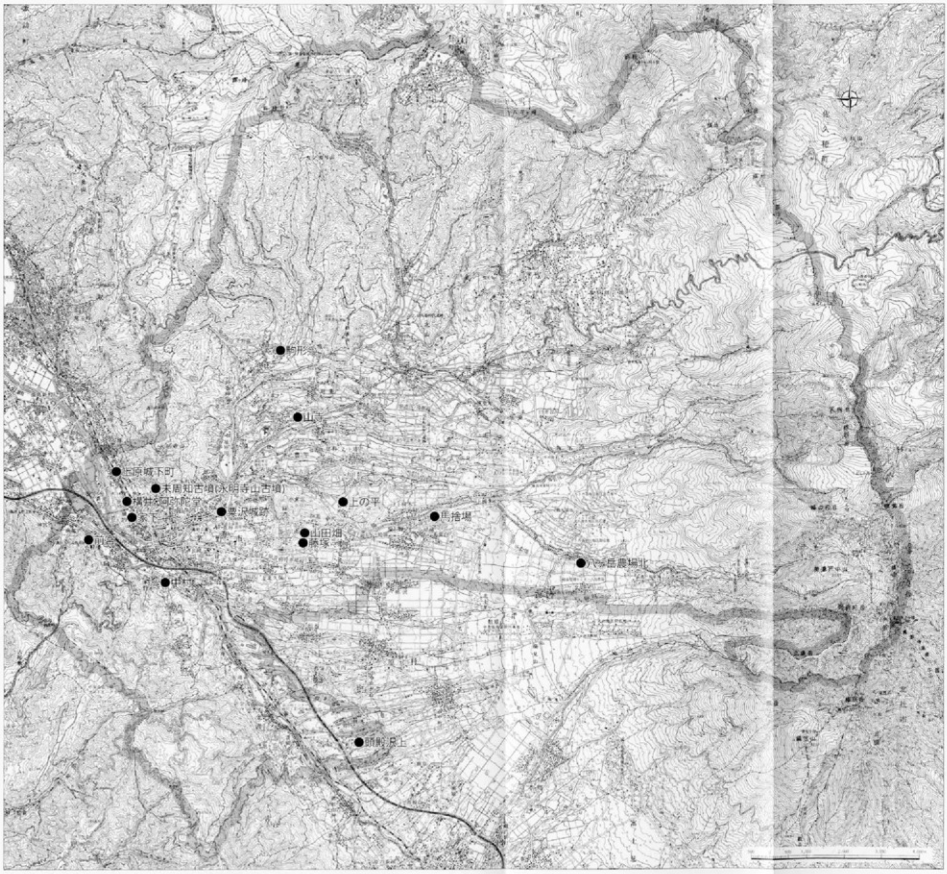
中村浩明（考古資係長 平成26年3月31日まで）
小池岳史（考古資係長 平成26年4月1日から）
功刀　司（史跡整備担当）　小林深志（文化財係長）
山科　哲　大月三千代（平成26年4月1日から）　髙釼幸雄　塩澤恭輔
守矢美空（平成26年3月31日まで）

④ 調査担当　小林深志　小池岳史　塩澤恭輔（発掘調査・整理作業・報告書担当）

⑤ 発掘調査参加者

補助員　牛山知子　酒井みさを　大勝弘子　武居八千代　立岩貴江子

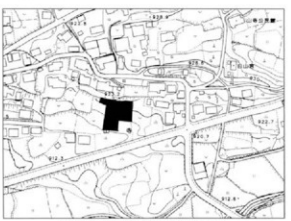
作業員　宮坂　功　赤沢省一



第1図　調査遺跡位置図（1/1000）

第２章　試掘調査

1　山寺遺跡



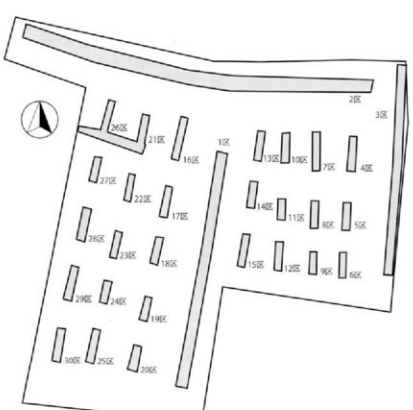
第２図　調査地点位置図 (1/5000)

遺跡番号　71-15
所 在 地　茅野市豊平字山寺 1842 番、1844 番 1
調査原因　宅地造成
調査期間　平成 26 年 1 月 27 日～２月５日
調査面積　194㎡
遺　　構　平安住居 1
遺　　物　平安土師器 1、須恵器 1、中世土師質土器 1、打製石斧 1

調査の概要　遺跡のほぼ中央、南向き斜面の耕作地（畑）が宅地に造成されることとなった。昭和 32 年以降の発掘調査等で、事業計画地に近接する南側斜面から平安時代の竪穴住居址が複数確認されている。こうした遺跡の状況から、工事に先立ち確認調査を行うことにした。

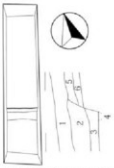
事業計画地全域に 30 箇所の試掘溝（坑）を設定し、事業者から提供された 0.28㎥級のバックホーで慎重に掘り下げを進め、人力により精査した。

その結果、西側に設けた 26 区の試掘坑にかかる平安時代とみられる竪穴住居址を発見した。南側（壁）が流失していたが、北壁の掘削方向から、ほぼ南北に主軸をもつ住居址と考えられる。その後、東西方向の広がりを



第３図　調査位置図 (1/400)

みるため、同方向に設けた試掘溝を掘り下げた結果、境界を越えてさらに西側に広がる、東西５ｍ以上の規模をもつ住居址であることを確認した。この住居址は宅地造成に伴う盛土（埋め土）の下に保存されている。



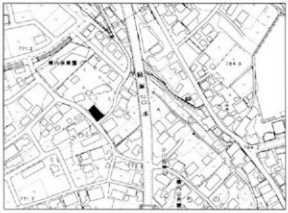
1　耕作土(畑)
2　黒色土 10YR1.7/1+黒褐色土 10YR2/2～3/2(黒褐色土は塊状)混在土。1号住居址埋土。2㎜以下の炭化物粒子を2%、1.5cm以下の礫を多量に含む。
3　黒色土 10YR1.7/12 層より硬く締まる。カチカチに近い。明褐色土塊 10YR6/6(砂質)を2㎜以下の3%、2cm以下の炭化物を3%、3cm以下の例を多量に含む。
4　黒褐色土 10YR2/2+黒色土 10YR1.7/1. 1号住居址周溝埋土。カチカチに硬い。5㎜以下の明褐色土塊(砂質)を10%、2㎜以下の炭化物を1%、1.5cm以下の礫を多量に含む。
5　黒色土 10YR2/1. 硬い。5㎜以下の明黄褐色土(砂質)塊を2%、5cm以下の礫を多量に含む。
6　黒褐色土 10YR2/2～3/2. カチカチに硬い。1cm以下の明黄褐色土塊(砂質)を5%、2㎜以下の炭化物を1%、5cm以下の礫を多量に含む。

第４図　１号住居址 (1/80)

図版１　調査前全景

図版２　26 区遺構検出状態

2　家下遺跡



第５図　調査地点位置図 (1/5000)

遺跡番号　110-51
所 在 地　茅野市ちの 2574-2
調査原因　個人住宅
調査期間　平成 25 年 6 月 20 日
調査面積　2㎡
遺　　構　なし
遺　　物　なし

遺跡の概要　茅野市街地が広がる平坦面は上川が形成した沖積地で、諏訪構造帯茅野断層と呼ばれる南東－北西に走る比高約 10 ｍの崖を境に、崖上の東側が「沖積段丘」、崖下の西側が「沖積低地」に区分される。

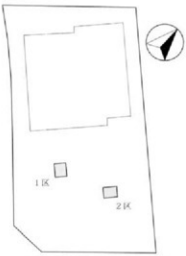
本遺跡は沖積段丘に位置する茅野駅の西約 500 ｍ、崖直下の沖積低地に所在する。地籍はちの地区横内である。遺跡の面積は約 85,000㎡、遺跡内の標高は 770 ～ 772 ｍを測る。

平成６年の土地区画整理事業に伴う発掘調査以降、約 40 箇所で発掘調査等が行われ、弥生時代から江戸時代まで継続する集落遺跡であることが確認された。崖下の豊富な湧水や崖下に広がる湿地を背景に、市内で最も早い時期に水稲農耕が開始され、以降、この生業を基盤に集落が繁栄することとなる。

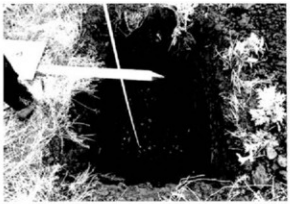
集落の形成は弥生時代の中期後半に始まる。後期に入り、集落範囲の拡大とともに遺構数が急増し、本遺跡最大の繁栄期を迎える。中期後半集落のつくられた遺跡範囲北側の微高地上には、後期前半に人工と自然の溝（湿地）を併用した環濠集落がつくられる。後期後半になると環濠集落が廃絶し、周溝墓・木棺墓・土器棺墓群からなる墓域となる。周溝墓の主体部や木棺墓からは、銅釧・小銅環・ヒスイ製勾玉・ガラス小玉といった希少な品々が出土した。こうした環濠集落をはじめ、様々なタイプの墓とそこから出土した遺物は、茅野市はもとより、諏訪地方で初めての発見である。古墳時代は前期から後期まで集落が継続し、1軒のみであるが、市域の古代史上「空白期」とされる中期の竪穴住居址が発見されている。また、奈良時代も「空白期」とされる時期であるが、やはり数軒の竪穴住居址が発見されている。続く平安時代になると竪穴住居址の発見数が増加する。これら奈良・平安時代の竪穴住居址は、多くが遺跡範囲の南半から東半に分布する傾向がある。さらに本遺跡の南に接し、一体の遺跡と考えられている下蟹河原遺跡にかけて広がる可能性が高い。下蟹河原遺跡の実体がはっきりしないが、時期が新しくなるに従って、集落の中心が家下遺跡から下蟹河原遺跡へ動いている可能性が指摘される。

調査の概要　遺跡の中央からやや東に寄った場所で個人住宅が建築されることとなった。その基礎工事に先立ち、地表下100㎝までを地盤補強する表層改良工事が計画されていた。事業地は、周辺で行われた調査の結果から、弥生時代以降の遺構が存在するとみられた土地である。計画どおり補強工事が行われた場合、工事の規模から考えて、遺構の破壊が予想された。そこで、工事着手前に確認調査を行うことにした。

調査は住宅基礎に影響のない地点で行うこととし、2箇所を事業者から提供された0.11㎥級のバックホーで計画された深度まで慎重に掘り下げた。調査を行った結果、2箇所とも厚さ約100㎝の盛土（埋め土）および耕作土（水田）の下に、地山とみられる砂層および砂礫層が露出した。この面を精査したが、遺構と遺物は発見されなかった。遺構の存在が確実視される土地であるため、事業者に対し補強工事の掘削を地山に達しない範囲で行っていただくよう申し入れたところ、計画より20㎝浅い掘削深度に変更されることとなった。こうした事業者の遺跡に対する配慮から、本工事は遺跡に影響のない範囲で行われている。

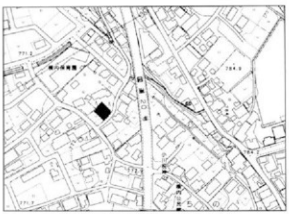


第6図　調査位置図(1/300)


図版3　1区掘削状況

図版4　2区掘削状況

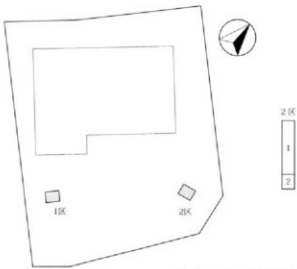
3　家下遺跡



遺跡番号　110-50
所 在 地　茅野市ちの 2574-7
調査原因　個人住宅
調査期間　平成 25 年 6 月 20 日
調査面積　2㎡
遺　　構　時期不明住居址 1
遺　　物　なし

第 7 図　調査地点位置図 (1/5000)

調査の概要　遺跡の中央からやや東寄りの地点で個人住宅が建築されることとなった。その基礎工事に先立ち、地表下 110㎝までを地盤補強する表層改良工事が計画されていた。事業地は、周辺で行われた調査の結果から、弥生時代以降の遺構が存在するとみられた土地である。計画どおり地盤補強工事が行われた場合、工事の規模からみて、遺構の破壊が予想された。そこで、工事着手前に確認調査を行うことにした。調査は住宅基礎に影響のない地点で行うこととし、2 箇所を事業者から提供された 0.11㎥級のバックホーで計画された深度まで慎重に掘り下げた。東側の試掘坑を精査したところ、厚さ 85㎝の盛土（埋め土）下に時期不明の竪穴住居址を確認した。一方、西側の試掘坑では、厚さ約 70㎝の盛土下に地山とみられる砂層が露出した。その面を精査したが、遺構は発見されなかった。この調査結果をもとに、再度、事業者と協議した結果、地表に約 30㎝の盛土を施すとともに、補強工事の掘削深度を 30㎝ほど浅くするという設計変更がなされ、発見された竪穴住居址は住宅の下に保存されることとなった。



第 8 図　調査位置図 (1/300) と 2 区土層柱状図 (1/40)

図版５　調査前全景

図版６　２区住居址床面検出状況

4　藤塚遺跡

第９図　調査地点位置図 81/5000)

遺跡番号　162-26
所 在 地　茅野市玉川 3576 番地１
調査原因　工場建設
調査期間　平成 25 年５月 28 日～５月 29 日
調査面積　26㎡
遺　　構　縄文住居址１
遺　　物　縄文土器 88・石器６・黒曜石 78

遺跡の概要　八ヶ岳の西麓、東西に伸びる長峰状の台地に立地する。地籍は玉川地区小堂見である。遺跡の面積は約 38,000㎡、遺跡内の標高は 928 ～ 918 ｍを測る。遺跡の中央を東西に通じる市道が早い時期に整備されたことを契機に、本遺跡とその周辺は早くから宅地化が進行した。

『諏訪史』第一巻（1924）の「諏訪郡先史時代遺物発見地名表」に藤塚の名が記されている。このように、古くから縄文土器や石鏃などが採集できる遺跡として知られていた。また、市内にある縄文遺跡の中で早くから調査が行われた遺跡でもあり、昭和 32 年以降、30 余りの地点で発掘調査等が行われている。

昭和 32 年、市道に挟まれた遺跡の中央やや北寄りにある玉川中学校（当時）の実習地で、社会科の学習を目的に本遺跡で最初の調査が行われた。昭和 34 年にも同様の調査が行われ、平面形が隅丸方形を呈し、長方形の石囲炉をもつ縄文時代中期の竪穴住居址が２軒発掘された。その後、市道拡幅・個人住宅建築・宅地造成工事等に伴う発掘調査によって、縄文時代中期（中葉末～後半）の竪穴住居址が 30 軒以上確認された。竪穴住居址は遺跡中央から南半に集中し、その分布状態から、南北 160 m、東西 120 ｍの環状ないし馬蹄形集落の形成が推測されている。また、集落の中心部とみられる場所を調査した結果、黒褐色土層中に据えられた中期後半（末葉？）の配石が確認された。このように本遺跡は、縄文時代中期後半に特に繁栄した拠点的な性格をもつ集落遺跡である。

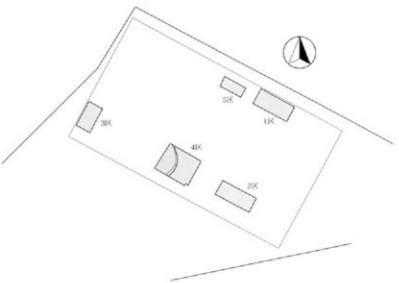
調査の概要　遺跡の西端部に工場が建築されることとなった。遺跡範囲上での位置からみて、事業地下に遺構のある可能性は低いと思われたが、1.5 ｍ角ないし 2.5 ｍ角の 12 箇所の独立基礎が地表下 105㎝に設置されるため、基礎工事に先立ち確認調査を行うことにした。

表土の除去は事業者から提供された 0.11㎥のバックホーを使用した。独立基礎の位置にあわせ、５箇所を掘り下げたところ、最も大きな基礎部から黒色土の落ち込みが発見された。部分的に掘り下げてみたが、人工とも自

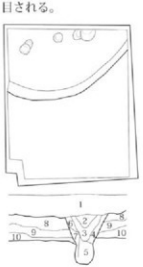
然とも判断できない状態であった。そこで、性格を明らかにするために全体を掘り下げることにした。

その結果、床とみられる平坦面、壁であろう立ち上がり、柱穴と考えられる小穴が確認され、出土した縄文時代中期中葉の初めの土器片から、該期の竪穴住居址であることが判明した。事業者負担による発掘調査とすべき事業であったが、全体を掘り下げた結果、竪穴住居址であるとの結論に達したため、確認調査の中で記録保存が行われることとなった。

出土遺物は、貉沢期のものであるが、中期後半とされていた本遺跡では初めての中期前半の遺構・遺物であり、注目される。

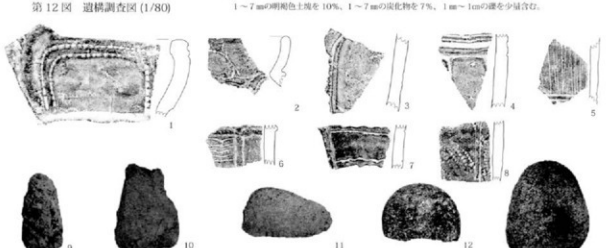


第11図　調査位置図 (1/300)



第12図　遺構調査図 (1/80)

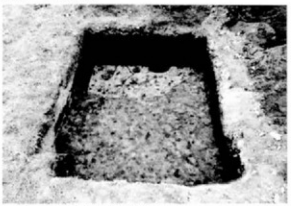
1　砕石・耕作土
2　黒色土 7.5YR1.7/1　柱穴埋土
　1～2cmの明黄褐色土塊を1%、1～2cmの炭化物を1%、1～2mmの礫を少量含む。
3　黒色土 10YR1.7/1　柱穴埋土
　1～2mmの明黄褐色土塊を1%、1～2mmの炭化物を1%、1～5mmの礫を少量含む。
4　黒色土 10YR2/1　柱穴埋土
　1～5mmの明黄褐色土を塊を3%、1～2mmの炭化物を2%、1～5mmの礫を少量含む。
5　黒褐色土 10YR2/2　柱穴埋土
　1mm～2cmの明褐色土塊を25%、1mm～1cmの炭化物を3%、1mm～1cmの礫を少量含む。
6　黒色土 7.5YR1.7/1　柱穴埋土
　1mmの明褐色土塊を1%、1mmの炭化物を1%、1～2cmの礫を少量含む。
7　黒色土 10YR1.7/1　柱穴埋土
　1～5mmの明褐色土塊を7%、1mmの炭化物を1%、1～5mmの礫を少量含む。
8　黒色土 10YR1.7/1　住居址埋土
　1mm～1cmの明褐色土塊を2%、1～2mmの炭化物を2%、1mm～1cmの礫を少量含む。
9　黒色土 10YR2/1　住居址埋土
　1mm～1cmの明褐色土塊を10～15%、1～5mmの炭化物を5%、1mm～1cmの礫を少量含む。
10 黒褐色土 10YR2/2　住居址埋土
　1～7mmの明褐色土塊を10%、1～7mmの炭化物を7%、1mm～1cmの礫を少量含む。



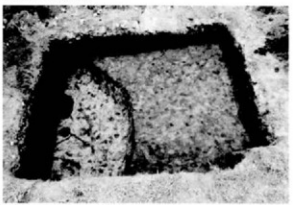
第13図　1号住居址出の土器 (1/3) と石器 (1/4)

図版７　調査前全景

図版８　調査風景

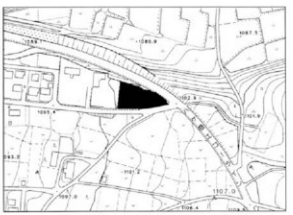


図版９　４区１号住居址（南東から）



図版 10　４区１号住居址（南西から）

5　馬捨場遺跡



第 14 図　調査地点位置図 (1/5000)

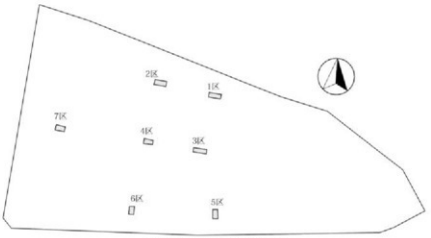
遺跡番号　170-3
所 在 地　茅野市泉野字笹尾根 5931-100
　　茅野市玉川字菖蒲ケ沢 11398-289
調査原因　店舗
調査期間　平成 25 年 10 月 16 日
調査面積　10㎡
遺　　構　なし
遺　　物　黒曜石 1

調査の概要　遺跡の北西端に店舗が建築されることとなった。これに伴う基礎工事は、建物の外周を幅 70㎝、地表下 60 ～ 70㎝まで掘削する計画である。さらに、敷地内に５箇所の駐車場の造成が計画されており、これに伴う掘削は地表下 30㎝である。

当遺跡を縦断する広域農道の建設に伴い、平成 12・13 年に長野県埋蔵文化財センターが発掘調査を行った。事業計画地の北に接する調査区（３区）から、旧石器時代のブロックや縄文時代以降の落し穴などが検出されたが、特に旧石器時代の遺構が事業計画地側に広がる様子が認められている。

事業計画地に同様の遺構が存在する可能性があるとみて、工事に先立ち確認調査を行うこととした。事業計画地に７箇所（店舗：４箇所、駐車場：３箇所）を設定し、0.11㎥級のバックホーで、計画された掘削深度付近まで掘り下げ、人力で掘削面を精査した。その結果、60㎝以上の盛土（埋め土）によって造成された土地であるこ

と、本工事はこの盛土の中で止まることを確認した。



第 15 図　調査位置図 (1/600)

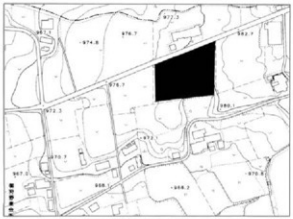
図版 11　調査風景 1

図版 12　調査風景 2

図版 13　2 区掘削状況

図版 14　7 区掘削状況

6　頭殿沢上遺跡



第 16 図　調査地点位置図 (1/5000)

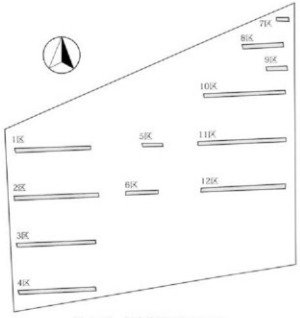
遺跡番号　197-4
所 在 地　茅野市金沢御狩野 5569
調査原因　太陽光発電
調査期間　平成 25 年 10 月 24 日～ 10 月 28 日
調査面積　185㎡
遺　構　なし
遺　物　なし

調査の概要　遺跡の東端に太陽光発電施設が建設されることとなった。事業地全域に東西 11 列の太陽光パネルが設置されるが、それぞれの列ごとに幅約 400㎝、地表下 30㎝まで掘削した後、パネルを乗せる架台を組み立てる計画である。

平成 16 年の下水道工事に伴う調査において、事業地の東側隣接地から平安時代の可能性がある住居跡が発見されている。また、開発面積が広範に及ぶため、工事に先立ち確認調査を行うことにした。過去の調査で、地表から数 10㎝下が黄褐色土層（ローム層）となることを確認されているが、地表に遺物が落ちていないことから、遺構が存在するとしてもその数は少ないことが考えられた。

かつて遺構が確認された東側を中心に、幅 1 m、長さ 3 ～ 23 mの試掘溝を 12 箇所設定し、事業者から提供された 0.45㎥級のバックホーで、計画深度付近まで慎重に掘り下げた後、人力により精査した。しかし、遺構と遺物は発見されなかった。こうした調査結果からみて、本調査に移行する必要がないと判断した。

図版 15　調査状況（北東から）



第 17 図　調査位置図 (1/1000)

7　構井・阿弥陀堂遺跡隣接地

第 18 図　調査地点位置図 (1/5000)

遺跡番号　223・222
所 在 地　茅野市ちの塚原・上原
調査原因　広域下水道
調査期間　平成 25 年 12 月 20 日～ 1 月 24 日
調査面積　50㎡
遺　構　平安住居址 2
遺　物　土師器・須恵器

調査の概要　遺跡の北端をかすめ、東西に通じる市道内に下水道管の敷設工事が計画された。この工事は幅 150 ㎝、深さ約 3 ｍまで掘削し施工される。昭和 40 年代に遺跡北側を含む広い範囲が工場建設関連事業により造成され、その際に遺跡北側の工場建設地点から土器や石器が出土したといわれている。こうした遺跡の情報があるものの、詳細が不明なため、職員立ち会いのもとで工事を進めてもらうことにした。

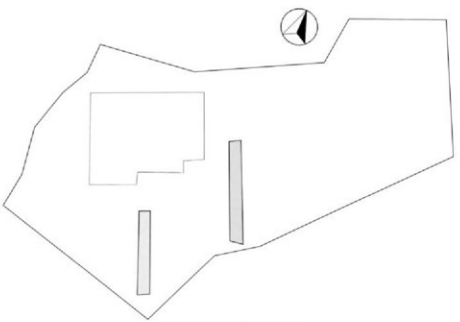
工事に立ち会ったところ、平安時代前期の竪穴住居址が発見され、加えて予想以上に土層の残りがよいことを確認した。該期の遺構が遺跡範囲外に広がる可能性が高いため、東に向かって試掘調査を行うことにした。幅 150㎝、長さ 3 ｍないし 5 ｍの試掘溝を 7 箇所設定し、0.45㎥級のバックホーで慎重に掘り下げ、作業員を投入し掘削面を精査した結果、住居址発見地点に最も近い試掘溝（1 区）から、平安時代とみられる新たな竪穴住居址を発見した。また、その東側の 2 箇所の試掘溝（2・3 区）では遺物を含む黒色土層を確認した。一方、3 区より東側の試掘溝（4 ～ 7 区）では、先の造成やその後の工事による掘削が地山を深く乱しており、遺構があったとしても残されている可能性は低いと思われた。この調査の結果に基づき、本遺跡の範囲を 3 区付近まで拡大し、最初に住居址が発見された地点から約 80 ｍの区間を対象に、平成 26 年度に記録保存調査を行った。本調査の発掘調査報告書は、平成 27 年度に作成予定である。

第 19 図　出土遺物　1・2(1/4)、3(1/2)

8　上原城下町遺跡

遺跡番号　224-157-2
所 在 地　茅野市ちの字播磨小路 1357・1359
調査原因　個人住宅・宅地造成築
調査期間　平成 25 年 8 月 9 日
調査面積　15㎡
遺　　構　時期不明住居址 1
遺　　物　中世土師質土器 10、時期不明土器 2

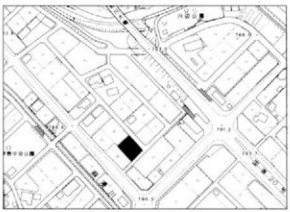
第 20 図　調査地点位置図（1/5000）



第 21 図　調査位置図 (1/300)

調査の概要　遺跡の北東部に個人住宅が建築されることとなった。その基礎工事に先立ち、地表下を最大 130㎝まで掘削し、斜面を平らにするとともに、その平坦面の上方境界に沿ってＬ字型擁壁の設置が計画されていた。工事の掘削が広範に及ぶため、工事着手前に確認調査を行うことにした。Ｌ字型擁壁の設置箇所と住宅建築予定地の南側に、それぞれ試掘溝を設定し、0.11㎥級のバックホーで表土を剥ぎ取った後、人力により精査した。

永明寺山から崩落した花崗岩塊の一部が地表に露出する様子から、相当な数と大きさの花崗岩塊が地下に埋もれていることが予想されたが、表土層を除去した結果、長さ２m、幅１mまでの花崗岩塊が折り重なるように現れた。石の中に人為的に積まれたもの、あるいは組まれたと思われるものは認められなかった。また、遺物の出土量も少なく、表土層から中世土師質土器（内耳鍋が主体）の小破片が 10 数点出土しただけである。こうした地下の様子からみて、調査対象地に遺構が存在する可能性は極めて低いと考えられる。これにより本調査に移行する必要がないと判断した。

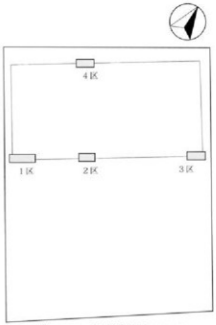


第 22 図　調査地点位置図 (1/5000)

遺跡番号　323-6
所 在 地　茅野市宮川西茅野土地区画整理区 18 街区 3 区地
調査原因　宅地造成
調査期間　平成 27 年 3 月 24 日
調査面積　7㎡
遺　　構　なし
遺　　物　なし

調査の概要　遺跡の南端に集合住宅が建設されることとなった。これに伴う基礎工事は、建物の外周を幅 100cm、地表下 50cmまで掘削する計画である。事業地は土地区画整理事業地区内にある盛土（埋め土）で造成された土地である。盛土の厚さが不明であり、盛土以下の地山層に工事の掘削が及ぶ可能性も考えられるため、工事に先立ち確認調査を行うことにした。

建築範囲に 4 箇所の試掘坑を設定し、0.11㎥級のバックホーで計画深度まで掘り下げた後、人力により精査した。その結果、盛土の中で工事が行われることを確認した。



第 23 図　調査位置図 (1/400)

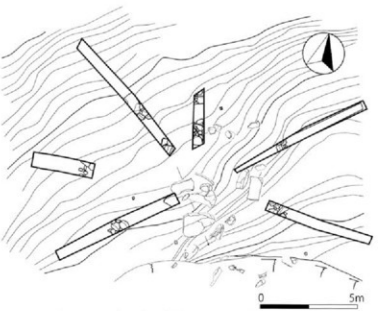
図版 16　調査前全景

図版 17　1 区掘削状況

10　永明寺山古墳

遺跡番号　348
所 在 地　茅野市ちの釜石 4256 番地
調査原因　墓地造成
調査期間　平成 25 年 4 月 16 日～6 月 18 日
調査面積　29㎡
遺　　構　石室、外護列石
遺　　物　土師器、須恵器

第 24 図　調査地点位置図 (1/5000)



第 25 図　永明寺山古墳トレンチ設定図 (1/200)

遺跡の位置と環境　本遺跡は、茅野市役所から北へおよそ 1 ㎞の場所にある、茅野市ちの永明寺山公園墓地内に所在する。永明寺山は、霧ヶ峰火山塊の南縁を形成する標高 1156 ｍで、花崗岩質閃緑岩を基盤とした山である。古くからこの場所には永明寺山館古墳群と呼ばれる数多くの古墳が平坦部から中腹にかけて存在したが、現在ではその多くが失われてしまっている。本遺跡もその一つに含まれると考えられる。遺跡下方には、釜石古墳や一本樅古墳が残されており、この辺りでは最上部の古墳となる。

調査の概要　茅野市では、永明寺山公園墓地の一角に新たに市営墓地を造成することとし、アカマツ林の伐採を行った。埋蔵文化財包蔵地には指定されていない個所ではあったが、4 月 2 日、新たに造成される一角を文化財課で確認したところ、古墳の天井石の可能性のある礫が見受けられたため、急きょ担当課である市民課に連絡を行い、古墳であることを確認する確認調査を行うこととした。

試掘調査は、石室と考えられる個所の中心から放射状に 4 本のトレンチを設定した。その 4 本のトレンチすべてから、中心から半径 5 ｍほどの所に外護列石と考えられる石積みを確認した。そこで、本調査を行うための日数と費用を積算するための調査に切り替え、さらに 2 本のトレンチを設定し、掘削を行った。また、6 月の補正予算で発掘調査及び復元工事のための予算要求を行うとともに、6 月 18 日付で長野県教育委員会に遺跡発見の通知書を提出した。

本調査の報告書作成は、平成 27 年度に行う予定。

図版 18　調査前全景 1

図版 19　調査前全景 2

図版 19　調査前近景

図版 20　調査前地形測量

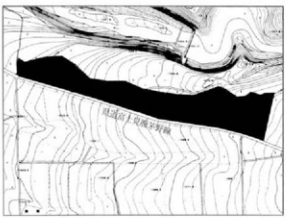
図版 20　調査開始

図版 21　調査風景

図版 22　主体部

図版 23　調査終了

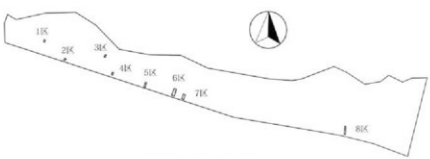
11　八ヶ岳農場北



遺跡番号　なし
所 在 地　茅野市玉川 11401-1 番地
調査原因　太陽光発電
調査期間　平成 25 年 10 月 19 日～ 10 月 28 日
調査面積　116㎡
遺　　構　なし
遺　　物　なし

第 26 図　調査地点位置図 (1/10000

調査の概要　八ヶ岳西麓の標高約 1,350 m前後 、八ヶ岳農業実践大学校が所有する玉川地籍の土地に太陽光発電施設の建設が計画された。開発面積が約 30,000㎡と広大であること、地表から最大３ｍまで掘削されること、計画地の南側約 700m の地点に縄文時代草創期の石器が採集された八ヶ岳農場遺跡が所在することから、試掘調査を行うことにした。事業計画地は、柳川に面した東西に細長い尾根状台地の平坦面頂部から北側斜面である。東側には、かつて建設業者の資材置き場があり、北側斜面が随所で大きく切り崩されている。一方、西側では斜面を埋め立て平坦面が作り出されているようであった。そこで、原地形が残されていると考えられる場所に、幅 1.2 ～ 3.8 m、長さ 2.5 ～ 14 mの試掘坑・溝を８箇所設定し、0.45㎥級のバックホーで計画深度または明黄褐色土層付近まで掘り下げた後、人力による精査を行った。調査の結果、事業計画地の原地形は予想以上に台地の幅が狭く、かつ傾斜のきつい斜面であることが確認された。また西側に広がる平らな面が、数mの盛土（埋め土）で造成されていることも確認された。明黄褐色土層の上に黒色土層が遺存する５～８区を精査したが、遺構と遺物は発見されなかった。これにより事業計画地は遺跡でないと判断した。



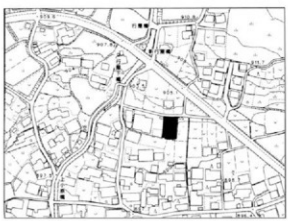
第 27 図　調査位置図 (1/3000)

図版 24　調査区全景 (東から)

図版 25　３区掘削状況 (西から)

第３章　市内個人住宅等関連発掘調査

1　駒形遺跡



第 28 図　調査地点位置図 (1/5,000)

遺跡番号　34-11
所 在 地　茅野市米沢字平出浦 4979-1
調査原因　個人住宅
調査期間　平成 25 年 4 月 22 日～ 5 月 21 日
調査面積　73㎡
遺　　構　縄文住居址 2、土坑多数
遺　　物　縄文土器・石器整理箱 4

調査の概要　駒形遺跡の所在する米沢地区は、茅野市の北側に位置する。ここは霧ヶ峰の南麓と呼ばれる地域で、上川を挟み、八ヶ岳西麓の台地と対峙する。駒形遺跡とその周辺は、南に開けた場所であり、南東に八ヶ岳、南西に赤石山脈、その間には遠く富士山を望むことができる。

米沢地区には、国史跡の駒形遺跡、国宝土偶 (縄文のビーナス) が出土した棚畑遺跡を含む 34 個所の縄文遺跡が存在する。

駒形遺跡は、茅野駅から北東に約 6 ㎞。米沢地区北大塩に所在し、霧ヶ峰山塊の「池のくるみ」を源とする桧沢川左岸の扇状地に立地する。扇頂から扇端まで、約 700m、扇端の幅が約 400m を測る扇状地で、その扇端部は上川およびその支流が形成した沖積面と接している。

駒形遺跡は、黒曜石製の石鏃がたくさん拾える遺跡として、明治時代には広く知られ、多くの人々が足を運び、さかんに石鏃を採集していたようである。中でも地元の開業医である田実文朗氏は有名で、明治から大正年間にかけて当遺跡を中心に 50,000 点以上の石鏃を採集したといわれる。

昭和 36 年に諏訪実業高校地歴部が実石考古館の宮坂英弋氏の指導のもと発掘調査を行い、縄文時代前期前半と中期後半の住居址、後期の配石遺構を検出している。その後も数次の調査が行われ、縄文時代前期から後期の大規模な集落遺跡であることが確認されている。また、平安時代の住居址や、中世の遺構・遺物旧石器時代の遺構も確認されている。

平成 6・8 年度には、長野県教育委員会が台地を中心とする確認調査を行い、縄文時代前期前半と中期中葉から後半の住居址約 30 件、後期前半の配石などを確認している。そして、竪穴住居址の一部を掘り下げて、出土した黒曜石の分析を行い、「黒曜石製の製作及び交易に深くかかわった遺跡であることを確認」している。この成果から、「黒曜石の集積、製作、搬出に関与していた集落跡と推定され、当時の石器製作技術や交易の実態を知る上で重要」と評価され、平成 10 年に台地上の約 24,000㎡が国史跡に指定された。

平成 15・16 年には、史跡範囲から南に下がった扇状地から湿地にかけて、東西に通じる県道建設工事が計画され、長野県埋蔵文化財センターが発掘調査を行った。その結果、縄文時代前期前半にほぼ限定される住居址や方形柱穴列が激しく切り合う集落が確認された。この集落のある扇状地と史跡指定されている台地は、約 10m の比高差をもつ斜面を挟み、約 70m 離れた位置関係にある。この斜面は平成 3 年に上部が宅地造成されることになり、市教育委員会が試掘調査を行っているが、縄文時代と考えられる土坑が 1 基検出されただけであった。また、県埋蔵文化財センターが斜面裾の取り付け道路敷きを調査したが、遺構や遺物は検出されなかった。この調査結果から、斜面に住居やその他の遺構が一定数存在する可能性は低いと考えられ、前期前半の集落が台地上と扇状地の２個所に分かれて存在していたことが推測される。

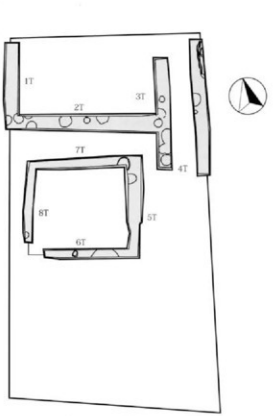
平成23度には史跡指定地に隣接する南西地点、平成24年度には北側に隣接する地点について、史跡内の集落範囲を確認するため試掘調査を行った。平成23年度に調査した南西側では縄文時代前期前半と考えられる住居址、遺物からは判別できないものの中期と考えられる住居址の他、平安時代の住居址も確認している。平成24年度は、史跡範囲北側で、大六殿遺跡との中間にあたる個所を調査し、縄文時代中期前半の住居址3軒と、縄文時代後期前半の敷石住居址1軒を確認している。このことから、すでにほ場整備により消滅してはいるものの、大六殿遺跡と本遺跡は一体のものであり、調査した地点も駒形遺跡の集落を考える上で、欠かせない個所であることが確認された。

調査の概要　遺跡の南側、扇状地扇端部の南側緩斜面に個人住宅とこれに伴う擁壁が建設されることとなった。事業地周辺で数次の発掘調査が行われ、縄文時代前期前半の大規模集落が確認されているが、この集落の推測範囲内に事業地は位置する。

建物の外周を幅60～140㎝、地表下40～45㎝まで掘削する住宅の基礎工事、ならびに総延長約38m、幅110～150㎝、地表下60～80㎝まで掘削する擁壁の基礎工事によって、該期の集落の一部が失われるおそれが生じた。そこで、事業者と協議を行い、工事に先立ち発掘調査を行うことにした。

事業者から提供された0.11㎥級のバックホーで表土を除去し、作業員を投入して作業を進めた結果、縄文時代前期前半とみられる竪穴住居址2軒、縄文時代前期前半および末葉と考えられる20基余りの土坑などを確認した。事業者に対し遺構の保存を求めたが、隣地との高さの関係から、計画どおり工事を進めたいとする意向が示され、失われる範囲を対象に記録保存調査することで合意した。

確認された遺構の中で完全に失われるものはなく、特に工事の掘削が黒褐色土層内で止まる住宅の調査区から発見された遺構は、遺存状態が大変良好である。これらの遺構は住宅ならびに擁壁の基礎下に保存されている。



第29図　調査位置図(1/300)

検出された遺構　今回の調査区は、長野県埋蔵文化財センターが県道諏訪－茅野線の建設に伴って調査を行った地区から、約40mほど南に位置する。このことから、縄文時代前期前半の遺構や遺物が検出・出土することが予想された。

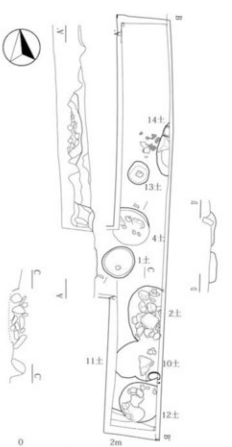
1号トレンチでは、はっきりとした住居のプランは検出できなかったが、黒色土内に床面かと考えられる硬化した面があり、胎土に繊維を含み、羽状縄文の施文された土器など、縄文時代前期前半の土器がある程度まとまって出土している(第　図)。

2～4号トレンチでは、径が1m以下の土坑と、50㎝以下の土坑との2者があり、径1m程の土坑の覆土には礫が入る集石土坑ともいうべきものである。4号トレンチでは、住居址(103号住居址)の一部も検出されたが、時期決定できるような遺物の出土はなかった。5・7号トレンチでも1m以下の土坑が検出されている。

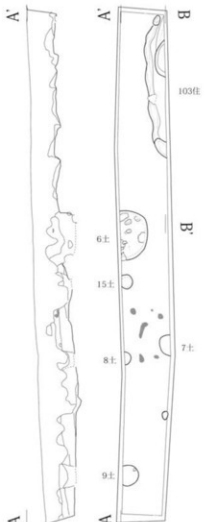
7・8号トレンチでは住居址と考えられる掘り込みを検出したが、今回の住宅建設ではそれ以上に掘削が及ばないことから、プラン確認までにとどめた。

6号トレンチからは、集石土坑の他、やや大きめの掘り込みが検出されたが、住居址ほどの大きさはない。この遺構についてもプラン確認にとどめている。

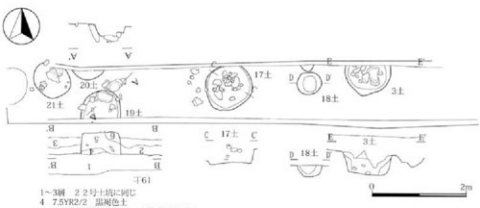
第30図　1号トレンチ遺構配置図 (1/80)



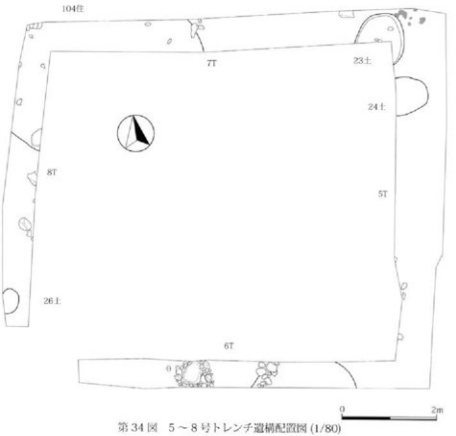
第31図　3号トレンチ遺構配置図 (1/80)



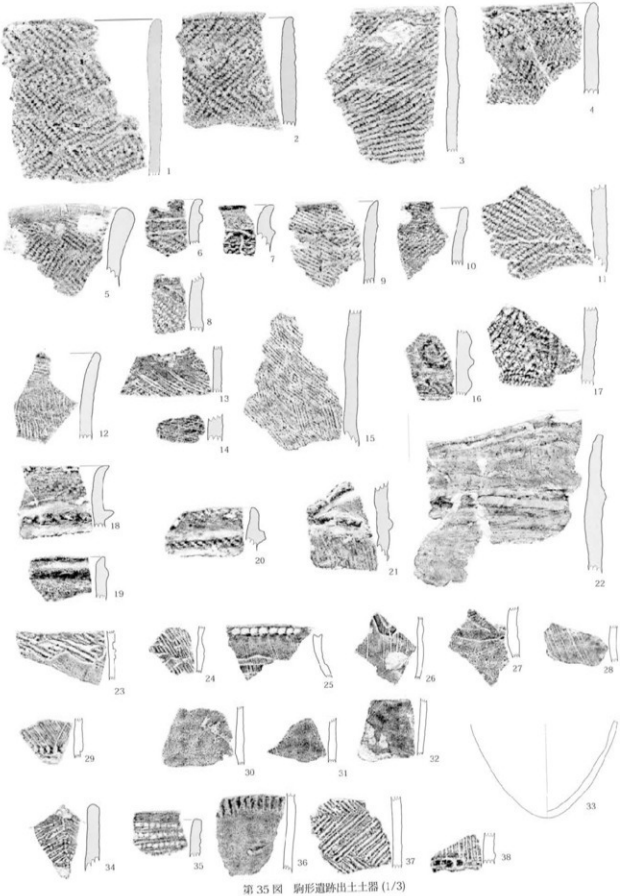
第32図　4号トレンチ遺構配置図 (1/80)



第33図　2号トレンチ遺構配置図(1/80)



第34図　5～8号トレンチ遺構配置図(1/80)



第 35 図　駒形遺跡出土土器 (1/3)

第 36 図　駒形遺跡出土石器 (1/4)

駒形遺跡出土土器（第 35 図）

1 ～ 11・16 ～ 20 は地文が縄文施文の群である。縄文施文構成が異原体を用いた菱形構成（1・2・5・9）と結束原体（4）、原体結節によるもの（11）、斜状構成（3）がある。口縁部下に特徴を有する群があり、肥厚口縁（5）・口縁部下が微妙に稜状をなすもの（9・10）、口縁部下に貼付隆帯が巡るもの（6 ～ 8・16・18 ～ 20）があるが、隆帯脇をナデ整形したものが全てであり、隆帯上にヘラ刻、縄文施文がある。16 は特徴的で渦巻状の隆帯上に縄文施文が加わる。これらは前期初頭塚田式期に帰属しよう。23 ～ 33 は薄手の一群で木島式に帰属する。

駒形遺跡出土石器（第 36 図）

今回の調査は、表土層を重機を用いて剥ぎ取り、遺物包含層以下を人力により掘り下げていったが、その包含層内から 1,713 点、4，548.4 g の黒曜石が出土している。この他にいくつかの礫器が出土しているが、遺構出土のもののみ掲載した。1 ～ 4 が 17 号土坑、5 が 24 号土坑出土のものである。砥石（1・5）と箆状の小形磨製石斧（4）がある。

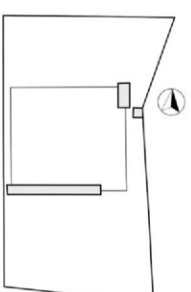
2　山寺遺跡

第 37 図　調査地点位置図 (1/5,000)

遺跡番号　71-14-2
所 在 地　茅野市豊平字山寺 1809 番 2
調査原因　個人住宅
調査期間　平成 25 年 5 月 7 日・5 月 29 日
調査面積　9㎡
遺　　構　なし
遺　　物　なし

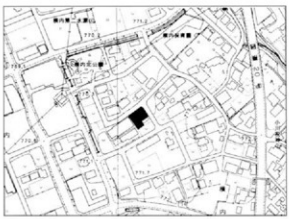
調査の概要　遺跡の東側に個人住宅とこれに伴う擁壁が建築されることとなった。住宅の基礎工事は、建物の外周を幅 80㎝、地表下 50 ～ 70㎝、擁壁の基礎工事は長さ約 16 m、幅 150㎝、地表下 100 ～ 190㎝までを掘削する計画である。事業地は南向きの斜面に　盛土し造成された土地である。この盛土の中で工事が行われる可能性が高いため、職員立ち会いのもとで工事を進めてもらうことにした。

立ち会いの結果、予想どおり、盛土の中で工事が行われることを確認した。



第 38 図　調査位置図 (1/300)

3　家下遺跡



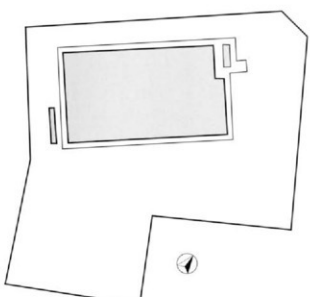
第 39 図　調査地点位置図（1/5,000）

遺跡番号　110-48
所 在 地　茅野市ちの 2538-2,3,4
調査原因　個人住宅
調査期間　平成 25 年 6 月 26 日
調査面積　50㎡
遺　　構　なし
遺　　物　弥生土器、古墳土師器 7

遺跡の概要　茅野市街地が広がる平坦面は上川が形成した沖積地で、諏訪構造帯茅野断層と呼ばれる南東－北西に走る比高約 10 ｍの崖を境に、崖上の東側が「沖積段丘」、崖下の西側が「沖積低地」に区分される。

本遺跡は沖積段丘に位置する茅野駅の西約 500 ｍ、崖直下の沖積低地に所在する。地籍はちの地区横内である。遺跡の面積は約 85,000㎡、遺跡内の標高は 770 ～ 772 ｍを測る。

平成 6 年の土地区画整理事業に伴う発掘調査以降、約 40 箇所で発掘調査等が行われ、弥生時代から江戸時代まで継続する集落遺跡であることが確認された。崖下の豊富な湧水や崖下に広がる湿地を背景に、市内で最も早い時期に水稲農耕が開始され、以降、この生業を基盤に集落が繁栄することとなる。



第 40 図　調査位置図（1/300）

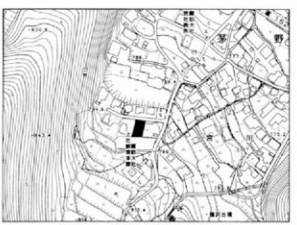
集落の形成は弥生時代の中期後半に始まる。後期に入り、集落範囲の拡大とともに遺構数が急増し、本遺跡最大の繁栄期を迎える。中期後半集落のつくられた遺跡範囲北側の微高地上には、後期前半に人工と自然の溝（湿地）を併用した環濠集落がつくられる。後期後半になると環濠集落が廃絶し、周溝墓・木棺墓・土器棺墓群からなる墓域となる。周溝墓の主体部や木棺墓からは、銅釧・小銅環・ヒスイ製勾玉・ガラス小玉といった希少な品々が出土した。こうした環濠集落をはじめ、様々なタイプの墓とそこから出土した遺物は、茅野市はもとより、諏訪地方で初めての発見である。古墳時代は前期から後期まで集落が継続し、1 軒のみであるが、市域の古代史上「空白期」とされる中期の竪穴住居址が発見されている。また、奈良時代も「空白期」とされる時期であるが、やはり数軒の竪穴住居址が発見されている。続く平安時代になると竪穴住居址の発見数が増加する。これら奈良・平安時代の竪穴住居址は、多くが遺跡範囲の南半から東半に分布する傾向がある。さらに本遺跡の南に接し、一体の遺跡と考えられている下蟹河原遺跡にかけて広がる可能性が高い。下蟹河原遺跡の実体がはっきりしないが、時期が新しくなるに従って、集落の中心が家下遺跡から下蟹河原遺跡へ動いている可能性が指摘される。

調査の概要　遺跡のほぼ中央にある個人住宅が建て替えられることとなった。これに伴う基礎工事は、建物の外周を幅 70 ～ 200㎝、地表下 30 ～ 35㎝まで掘削する計画である。

平成 7 年から 9 年にかけて、隣接する道路敷きが発掘調査され、弥生時代から中世までの遺構と遺物が多数発見されている。事業地はこのような場所に位置するが、工事の規模から考えて、既存住宅の建築時に乱された土

層の中で工事が行われるものと予想された。そこで、職員立ち会いのもとで工事を進めてもらうこととにした工事に立ち会ったところ、掘削された底面の一部に地山とみられる砂（砂礫）層が露出したため、事業者の承諾を得て掘削面を精査した。地山面に遺構は確認されず、撹乱土と耕作土から弥生時代から古墳時代の土器類が７点しただけである。

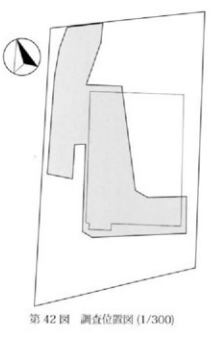
4　前宮遺跡



第 41 図　調査地点位置図 (1/5000)

遺跡番号　129-14
所 在 地　茅野市宮川字前宮 2055
調査原因　個人住宅
調査期間　平成 25 年 11 月 27 日～ 12 月 11 日
調査面積　90㎡
遺　　構　古墳住居址 1
遺　　物　縄文土器、古墳・平安土師器、須恵器、灰釉陶器、中世土師質土器、青磁、黒曜石整理箱 1

調査の概要　遺跡の南端に近い扇状地扇央部の西側斜面に個人住宅が建築されることとなった。東隣接地から平安時代の竪穴住居址や、縄文時代から平安時代の土器類が発見されたため、事業地下にこれらの遺構や遺物の存在が予想された。しかし、建物の外周を幅 60㎝、地表下 65㎝まで掘削する基礎工事は、造成時の盛土（埋め土）の中で行われる可能性が高いと思われた。そこで、職員立ち会いのもとで工事を進めてもらうことにした。ところが、直前になり住宅の基礎工事が総掘りとなったほか、斜面を切り進入路を設置する大きな設計変更が生じ、急きょ発掘調査を行うこととなった。

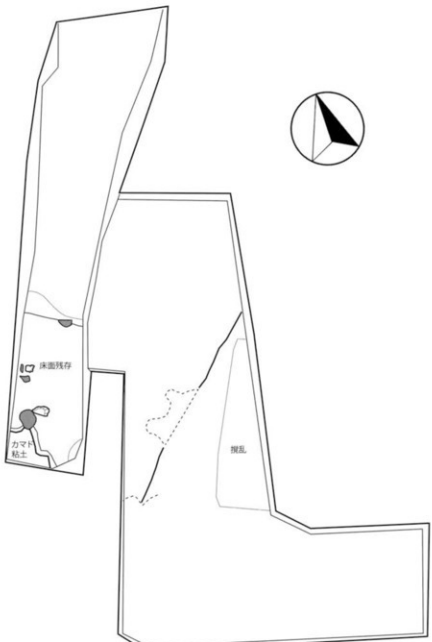


第 42 図　調査位置図 (1/300)

こうした事情から、先行する長さ約 12 m、幅 2 ～ 2.5 mの進入路については、事業者から提供された 0.11㎥級のバックホーにより表土を除去した。作業員を投入し、精査を進めた結果、古墳時代後期の竪穴住居址 1 軒、時期不明の焼土址を 2 箇所確認した。竪穴住居址は住宅の建築範囲にかかっており、後の調査でその東側を確認した。埋土の広がりから考えて、一辺 7m 程度の方形プランと推測される。

発見された遺構の保護措置を事業者と協議した結果、2 箇所の焼土址と、工事によって削平される住居址の床面付近までを対象に、記録保存調査することで合意した。したがって、調査を行わなかった住居址の床面下は、住宅の基礎下に保存されている。

第 43 図　出土遺物　1 ～ 3：住居址、4：遺構外 (1/4)

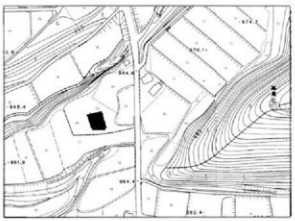


第 44 図　遺構分布図 (1/100)

図版 26　作業風景

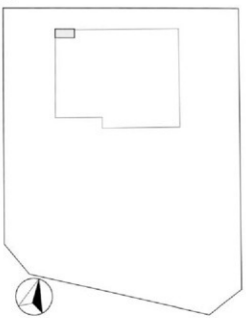
図版 27　1 号住居址 (北東から)

5　上の平遺跡



第 45 図　調査地点位置図 (1/5000)

遺跡番号　166-8
所 在 地　茅野市豊平字上の平 8873-5
調査原因　個人住宅
調査期間　平成 25 年 9 月 25 日
調査面積　1㎡
遺　構　なし
遺　物　なし



第 46 図　調査位置図 (1/300)

調査の概要　遺跡の北側に個人住宅が建築されることとなった。これに伴う基礎工事は、建物の外周を幅 70㎝、地表下 40㎝まで掘削する計画である。

事業地は近年造成された土地であるが、昭和 60 年代に、この土地とその周辺が試掘調査され、発見された縄文時代の竪穴住居址等が記録保存されたとのことである。しかし、調査地点や調査成果を記録した図面類が不明なため、職員立ち会いのもとで工事を進めてもらうことにした。工事に立ち会った結果、地表面下 30㎝が盛土（埋め土）、その下に耕作土（畑）の可能性がある黒色土層があり、これを除去した面が明黄褐色土（ローム層）となることを確認した。掘削面を精査したが、遺構と遺物は発見されなかった。

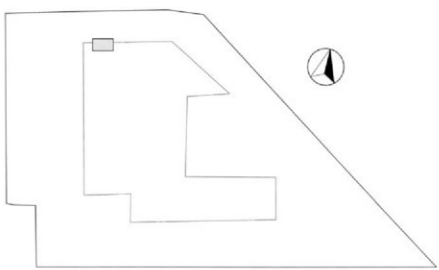
図版 28　調査区全景（南西から）

図版 29　1 区（南西から）

6　上の平遺跡

遺跡番号　166-9
所 在 地　茅野市豊平字上の平 8873-3,6
調査原因　個人住宅
調査期間　平成 25 年 10 月 15 日
調査面積　1㎡
遺　　構　なし
遺　　物　なし

第 47 図　調査地点位置図 (1/5000)



第 48 図　調査位置図 (1/300)

図版 30　調査区全景

図版 31　1 区 (南から)

調査の概要　遺跡の北側に個人住宅が建築されることとなった。これに伴う基礎工事は、建物の外周を幅 70cm、地表下 40cmまで掘削する計画である。

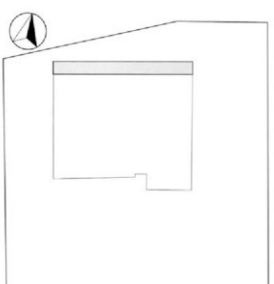
事業地は近年造成された土地であるが、昭和 60 年代に、この土地とその周辺が試掘調査され、発見された縄文時代の竪穴住居址等が記録保存されたとのことである。しかし、調査地点や調査成果を記録した図面類が不明なため、職員立ち会いのもとで工事を進めてもらうことにした。

工事に立ち会った結果、地表下 15cmが盛土（埋め土）、その下に耕作土（畑）とみられる黒色土～黒褐色土層があり、これを除去した面が黄褐色土層ないし明黄褐色土層（ローム層）となることを確認した。掘削面を精査したが、遺構と遺物は発見されなかった。

7　上の平遺跡

第 49 図　調査地点位置図 (1/5000)

遺跡番号　166-11
所 在 地　茅野市豊平字上ノ平 8873-2
調査原因　個人住宅
調査期間　平成 25 年 12 月 2 日
調査面積　10㎡
遺　構　なし
遺　物　なし



第 50 図　調査位置図 (1/300)

調査の概要　遺跡の北側に個人住宅が建築されることとなった。基礎工事は建物の外周を幅 100cm、地表下 35～50cmまで掘削する計画である。

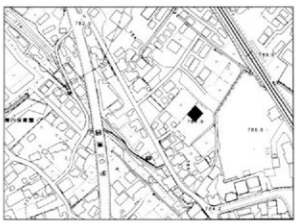
事業地は近年造成された土地であるが、昭和 60 年代に、この土地とその周辺が試掘調査され、発見された縄文時代竪穴住居址等が記録保存されたとのことである。しかし、調査地点や調査成果を記録した図面類が不明なため、職員立ち会いのもとで工事を進めてもらうことにした。

工事に立ち会った結果、宅地造成時の盛土（埋め土）の中で工事が行われることを確認した。

図版 32　調査区全景

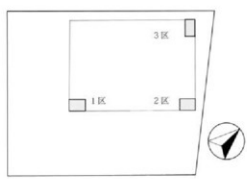
図版 33　基礎北辺（南から）

8　構井・阿弥陀堂遺跡



第 51 図　調査地点位置図 (1/5000)

遺跡番号　222・223-30
所 在 地　茅野市ちの字町屋敷 3406-1
調査原因　個人住宅
調査期間　平成 25 年 6 月 7 日
調査面積　3㎡
遺　　構　なし
遺　　物　なし



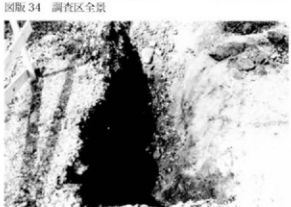
第 52 図　調査位置図 (1/300)

調査の概要　遺跡の南西端に個人住宅が建築されることとなった。これに伴う基礎工事は、建物の外周を幅 80㎝、地表下 55 ～ 80㎝まで掘削する計画である。事業地は厚い盛土(埋め土) で造成された土地である。工事の規模から考えて、この盛土の中で工事の掘削が止まるものと予想された。そこで、職員立ち会いのもとで工事を進めてもらうことにした。

工事に立ち会った結果、予想どおり、盛土の中で工事が行われることを確認した。

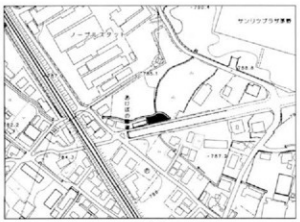
図版 34　調査区全景

図版 35　1 区 (南東から)



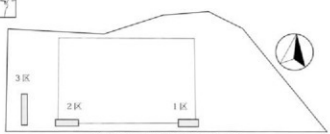
図版 36　2 区 (北東から)

図版 37　3 区 (北東から)



遺跡番号　222・223-29
所 在 地　茅野市塚原 1 丁目 2486 番 1
調査原因　個人住宅
調査期間　平成 25 年 6 月 11 日
調査面積　4㎡
遺　　構　なし
遺　　物　なし

第 53 図　調査地点位置図 (1/5000)



第 54 図　調査位置図 (1/300)

調査の概要　遺跡の南西端に個人住宅が建築されることとなった。これに伴う基礎工事は、建物の外周を幅 60㎝、地表下 15 ～ 35㎝まで掘削する計画である。事業地は耕作地（畑・水田）をそのまま宅地にした土地である。工事の規模から考えて、耕作土の中で工事が行われることが予想された。そこで、職員立ち会いのもとで工事を進めてもらうことにした。

工事に立ち会った結果、予想どおり、耕作土の中で工事が行われることを確認した。なお、事業者の協力を得て、事業地の西端を地表下 50㎝まで掘り下げてみたが、なお耕作土が続く模様であった。

図版 38　調査区全景

図版 39　1 区（東から）

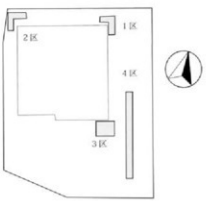
図版 40　2 区（東から）

図版 41　3 区（南から）

10　上原城下町遺跡

第 55 図　調査地点位置図 (1/5000)

遺跡番号　224-145
所 在 地　茅野市ちの字播磨小路 1379-1
調査原因　個人住宅
調査期間　平成 25 年 4 月 1 日
調査面積　8㎡
遺　　構　なし
遺　　物　なし



第 56 図　調査位置図 (1/300)

遺跡の概要　市域の北端に位置する永明寺山（1,119 m）の一支脈金比羅山（978 m）には、県史跡「諏訪氏城跡上原城」が築かれる。その直下、西向きの緩やかな斜面一帯に本遺跡は所在する。地籍はちの地区上原である。遺跡内の標高は 768 ～ 805 mを測る。

城下町のなごりを留める小字や地割りから、上原集落のほぼ全域となる約 535,000㎡が遺跡に登録されている。平成 2 年の試掘調査（詳細分布調査）以降、各種の開発工事に伴う発掘調査等が 160 以上の地点で行われた結果、中世城下町に関わる遺構のほかに、弥生時代中期後半から平安時代の竪穴住居址、弥生時代から古墳時代の墓（周溝墓・古墳）などが確認された。また、遺構は発見されていないものの、縄文土器の出土も報告されている。

調査の概要　遺跡の北側に個人住宅が建築されることとなった。基礎工事に先立ち、上下水道管の敷設するため、建物に沿って幅 50 ～ 120㎝、地表下 140 ～ 160㎝の掘削が計画されていた。事業地は土地区画整理事業地区内にあり、盛土（埋土）によって造成された土地である。また、同事業に伴い隣地で行われた調査によると、原地形は湿地と考えられている。掘削深度からみて、地山に掘削が及ぶことは間違いないが、遺構の存在する可能性が低いと考えられる地点であるため、職員立ち会いのもとで工事を進めてもらうことにした。

工事に立ち会った結果、予想どおり、水成堆積した土層が確認され、これに掘削が及んだ。その掘削面を精査したが、遺構と遺物は発見されなかった。その後、事業者の協力を得て、建物の東側を掘り下げてみたが、同様の状態であった。こうした調査の結果からみて、本工事が遺跡に影響を及ぼす可能性は極めて低いと判断した。

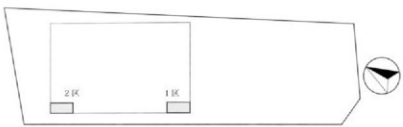
11　上原城下町遺跡

第 57 図　調査地点位置図 (1/5000)

遺跡番号　224-147
所 在 地　茅野市ちの字渋沢 1488-1
調査原因　個人住宅
調査期間　平成 25 年 5 月 16 日
調査面積　3㎡
遺　　構　なし
遺　　物　なし

調査の概要　遺跡の北端に個人住宅が建築されることとなった。これに伴う基礎工事は、建物の外周を幅80cm、地表下65cmまで掘削する計画である。事業者によると、耕作地（水田）を盛土（埋め土）した造成地であるとのことであった。工事の規模から考えて、盛土または耕作土の中で工事が行われることが予想された。そこで、職員立ち会いのもとで工事を進めてもらうことにした。

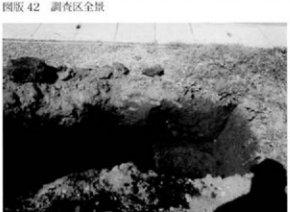
工事に立ち会った結果、予想に反し、盛土ならびに耕作土が薄く、その下の黒褐色砂質土および黒色粘土に掘削が及んだ。出水のため、断面の調査に留めたが、これらの層は水成堆積層と考えられるものであった。また、掘り上げられた土をほぐしてみたが、遺物は含まれていなかった。こうした調査の結果からみて、これ以上、調査する必要がないと判断した。



第58図　調査位置図 (1/5000)

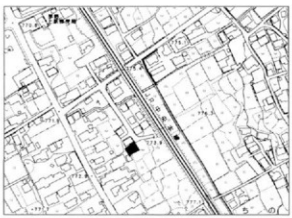
図版42　調査区全景

図版43　1区（北東から）



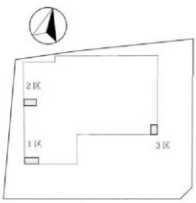
図版44　2区（北東から）

12　上原城下町遺跡



第 59 図　調査地点位置図 (1/5000)

遺跡番号　224-146
所 在 地　茅野市ちの字播磨小路 1334-15
調査原因　個人住宅
調査期間　平成 25 年 5 月 29 日
調査面積　2㎡
遺　　構　なし
遺　　物　なし

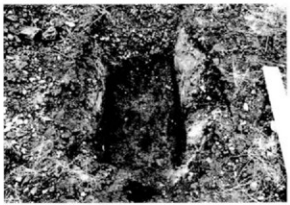


第 60 図　調査位置図 (1/300)

調査の概要　遺跡の中央やや北寄りの地点に個人住宅が建築されることとなった。これに伴う基礎工事は、建物の外周を幅 50㎝、地表下 45 ～ 60㎝まで掘削する計画である。

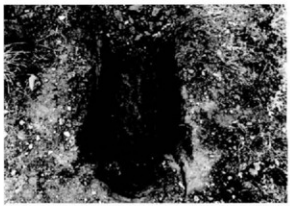
事業地は、平成に入り行われた土地区画整理事業地の一区画で、盛土（埋め土）によって造成された土地である。工事の規模から考えて、この盛土の中で工事が行われるものと予想された。そこで、職員立ち会いのもとで工事を進めてもらうことにした。工事に立ち会った結果、予想どおり、盛土の中で工事が行われることを確認した。

図版 45　調査区全景



図版 46　1 区 (南東から)

図版 47　2 区 (北東から)



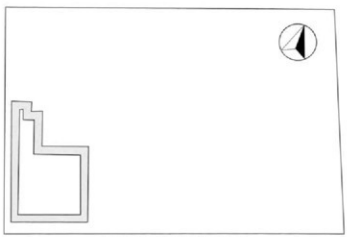
図版 48　3 区 (北東から)

13　上原城下町遺跡

第 61 図　調査地点位置図 (1/5000)

遺跡番号　224-151
所 在 地　茅野市ちの字葛井 317-2
調査原因　個人住宅増築
調査期間　平成 25 年 6 月 6 日
調査面積　18㎡
遺　構　なし
遺　物　弥生土器、古墳・平安土師器、須恵器 2、中世土師質土器 52

調査の概要　遺跡の西側にある個人住宅が増築されることとなった。これに伴う基礎工事は、建物の外周を幅 70㎝、地表下 50 ～ 60㎝まで掘削する計画である。事業地は耕作地（水田・畑）に盛土（埋め土）を施し造成した土地である。工事の規模から考えて、盛土または耕作土の中で工事が行われることが予想された。そこで、職員立ち会いのもとで工事を進めてもらうことにした。



第 62 図　調査位置図 (1/300)

工事に立ち会った結果、予想どおり、盛土下にある耕作土の中で、掘削が止まることを確認した。なお、計画深度以下に掘削が及んだ北側の一部に、耕作土と異なる黒色土を確認した。精査の結果、1㎡に満たないこの土層面から、古墳時代後期の土師器坏？とみられる口縁部ほか２点の土器片が出土した。土色・土質ならびに含有物などからみて、遺構の埋土である可能性が高い。

図版 49　調査区全景

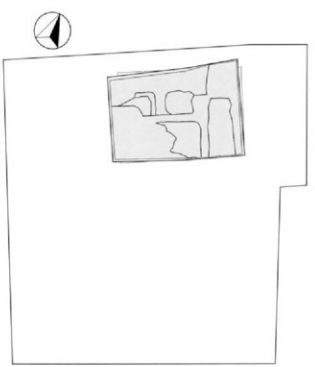
図版 50　調査後全景

第 63 図　調査地点位置図 (1/5000)

遺跡番号　224-154
所 在 地　茅野市ちの上原 1265-2
調査原因　個人住宅
調査期間　平成 25 年 6 月 25 日
調査面積　75㎡
遺　　構　竪穴状遺構 1、土間状遺構 1
遺　　物　古墳土師器、中世土師質土器 3、
　　灰釉陶器 4、近世陶器 4、黒曜石 2

調査の概要　遺跡北側にある個人住宅が建て替えられることとなった。これに伴う基礎工事は、建築範囲全体を地表下 25 ～ 75㎝まで掘削する計画である。既存住宅の建築および撤去によって地表下が深く乱され、この撹乱層の中で工事が行われる可能性が高いと予想された。そこで、職員立ち会いのもとで工事を進めてもらうことにした。

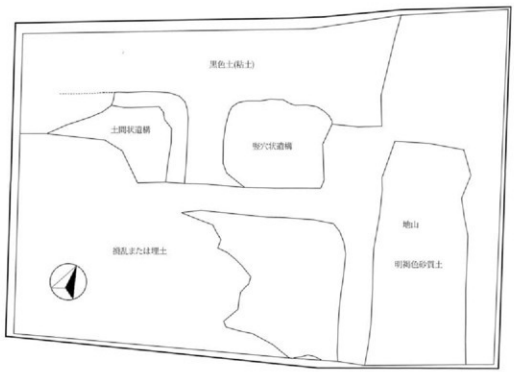
工事に立ち会ったところ、予想に反し、地山層に掘削が及んだため、事業者の承諾を得て、調査区全体を調査することにした。作業員を投入し、調査を進めた結果、近世以降とみられる竪穴状竪構と土間状遺構を発見した。これらの遺構は基礎下に保存されるため、検出状態の平面図の作成と写真撮影を行い、調査を終了した。



第 64 図　調査位置図 (1/300)

図版 51　調査風景

図版 52　遺構検出状態 (西から)



第 65 図　遺構分布図 (1/80)

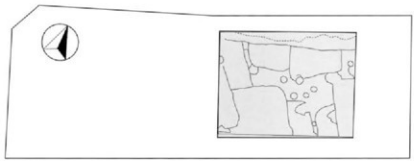
15　上原城下町遺跡

第 66 図　調査地点位置図 (1/5000)

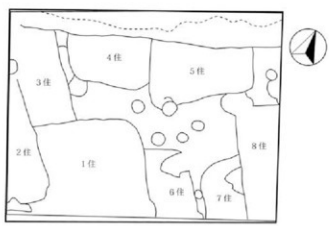
遺跡番号　224-150
所 在 地　茅野市ちの片羽 769 番 7,10
調査原因　個人住宅
調査期間　平成 25 年 6 月 25 日～ 7 月 9 日
調査面積　94㎡
遺　構　古墳以降住居址 9、溝址 1
遺　物　弥生土器、古墳・平安土師器、須恵器 2、黒曜石、石器整理箱 2

調査の概要　遺跡の西側に個人住宅が建築されることとなった。基礎工事に先立ち、建築範囲全体の地表下 45 ～ 80㎝までの土を、砕石に置き換える地盤補強工事が計画されていた。事業地とその周辺は、本遺跡の中で特に遺構密度の高い場所のようであり、建物全体を掘削する工事によって、存在が予想される弥生時代後期以降の遺構が失われるものと思われた。そこで、工事着工前に建築範囲全体を対象に記録保存調査を行うことにした。

0.11㎥級のバックホーで表土を除去した後、作業員を投入し、遺構検出作業を進めた結果、計画深度より高い位置で、古墳時代後期以降の竪穴住居址 9 軒、溝址 1 条、土坑 10 箇所以上を発見した。事業者に対し、この状態での保存を申し入れたが、計画どおり工事を進めるとする意向が示され、計画深度までを対象に記録保存調査することで合意した。南コーナーにかかる竪穴住居址を除き、完全に失われた遺構はなく、その多くが埋土の残る状態で砕石下に保存されている。



第 67 図　調査位置図 1/300

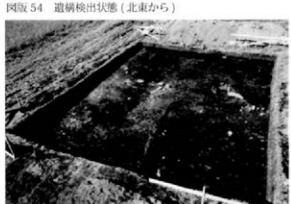


第 68 図　遺構検出図 (1/150)

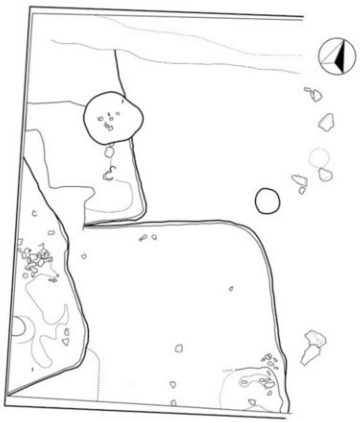
図版 53　調査風景

図版 54　遺構検出状態（北東から）

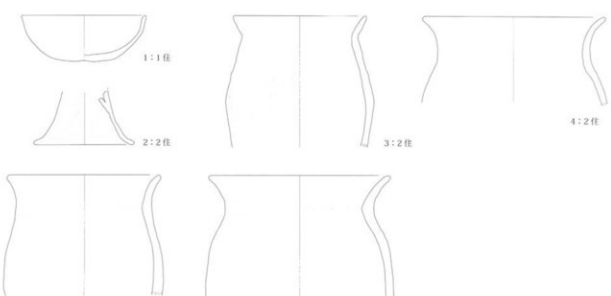
図版 55　調査風景



図版 56　調査終了（南から）



第 69 図　遺構調査図 (1/80)

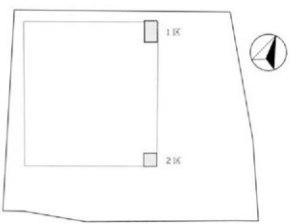


第 70 図　出土遺物 (1/4)

16　上原城下町遺跡墳

第 71 図　調査地点位置図 (1/5000)

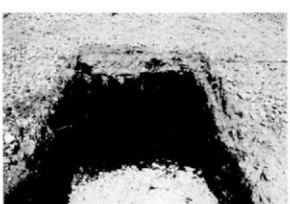
遺跡番号　224-143
所 在 地　茅野市ちの字大町 811
調査原因　個人住宅
調査期間　平成 25 年 7 月 1 日
調査面積　3㎡
遺　　構　なし
遺　　物　なし



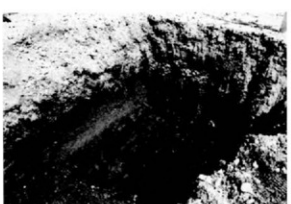
第 72 図　調査位置図 (1/300)

調査の概要　遺跡の中央やや北西寄りの地点に個人住宅が建築されることとなった。これに伴う基礎工事は、建物の外周を幅 100㎝、地表下 60 ～ 70㎝まで掘削する計画である。

事業地は耕作地（水田）に盛土（埋め土）を施し造成された土地である。工事の規模から考えて、この盛土の中で工事が行われることが予想された。そこで、職員立ち会いのもとで工事を進めてもらうことにした。工事に立ち会った結果、予想どおり、盛土の中で工事が行われることを確認した。



図版 57　1 区（北西から）



図版 58　2 区（北西から）

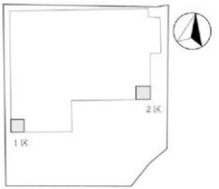
17　上原城下町遺跡墳

第 73 図　調査地点位置図 (1/5000)

遺跡番号　224-152
所 在 地　茅野市ちの字播磨小路 1379-2
調査原因　個人住宅
調査期間　平成 25 年 7 月 8 日
調査面積　2㎡
遺　　構　なし
遺　　物　なし

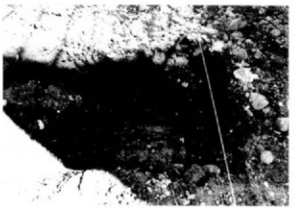
調査の概要　遺跡の中央やや北寄りの地点に個人住宅が建築されることとなった。これに伴う基礎工事は、建物の外周を幅 100cm、地表下 60cmまで掘削する計画である。事業地は、盛土（埋め土）によって造成された土地である。工事の規模から考えて、この盛土の中で工事が行われることが予想された。そこで、職員立ち会いのもとで工事を進めてもらうことにした。

工事に立ち会った結果、予想どおり、盛土の中で掘削が止まることを確認した。これにより本工事が遺跡に影響を及ぼすものでないと判断した。



第 74 図　調査位置図 (1/300)

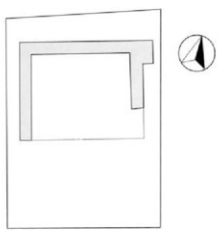
図版 59　1 区 (東から)



図版 60　2 区 (東から)

第 75 図　調査地点位置図 (1/5000)

遺跡番号　224-155
所 在 地　茅野市ちの字六勺 1221-1
調査原因　個人住宅
調査期間　平成 25 年 7 月 20 日
調査面積　21㎡
遺　構　なし
遺　物　なし



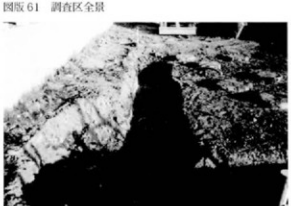
第 76 図　調査位置図 (1/300)

調査の概要　遺跡の中央やや東寄りの地点で個人住宅が建築されることとなった。これに伴う基礎工事は、建物の外周を幅 90cm、地表下 50cmまで掘削する計画である。事業地は厚い盛土(埋め土)によって造成された土地である。工事の規模から考えて、この盛土の中で工事が行われるものと予想された。そこで、職員立ち会いのもとで工事を進めてもらうことにした。

工事に立ち会った結果、予想どおり、盛土の中で工事が行われることを確認した。

図版 61　調査区全景

図版 62　掘削状況 1(北東から)



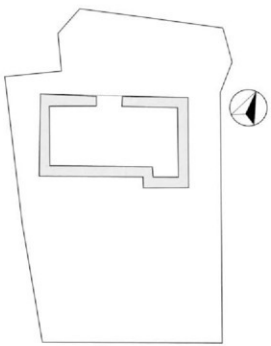
図版 63　掘削状況 2(北西から)

図版 64　掘削状況 3(北西から)

19　上原城下町遺跡

第 77 図　調査地点位置図 (1/5000)

遺跡番号　224-157
所 在 地　茅野市ちの字六勺 1205-1
調査原因　個人住宅
調査期間　平成 25 年 9 月 17 日
調査面積　27㎡
遺　　構　なし
遺　　物　なし

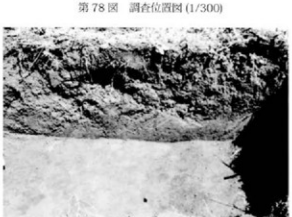


第 78 図　調査位置図 (1/300)

調査の概要　遺跡の中央やや東寄りに個人住宅が建築されることとなった。これに伴う基礎工事は建物の外周を幅 80㎝、地表下 60㎝まで掘削する計画である。事業地は耕作地（水田）に盛土（埋め土）を施し造成された土地である。工事の規模から考えて、盛土および耕作土の中で工事が行われることが予想された。そこで、職員立ち会いのもとで工事を進めてもらうことにした。

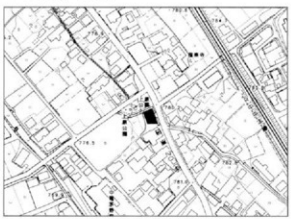
工事に立ち会ったところ、予想に反し、地山とみられる黒褐色土層に掘削が及ぶことを確認した。事業者の承諾を得て、掘削面を精査したが、遺構と遺物は発見されなかった。これにより本工事による遺跡への影響はないと判断した。

図版 65　調査区全景



図版 66　1 区土層断面

20　上原城下町遺跡



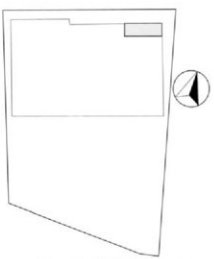
第 79 図　調査地点位置図 (1/5000)

遺跡番号　224-158
所 在 地　茅野市ちの字光明寺 921-1
調査原因　個人住宅
調査期間　平成 25 年 10 月 11 日
調査面積　3㎡
遺　構　なし
遺　物　なし

調査の概要　遺跡の南端にある個人住宅が建て替えられることとなった。これに伴う基礎工事は建物の外周を幅 110cm、地表下 65cm まで掘削する計画であるが、これに先立ち軟弱な地盤である北コーナー付近を長さ 300cm、深さ 190cm まで砕石に置き換える補強工事が計画されていた。事業地は国道に接し、道路面から 100cmあまり低い土地である。

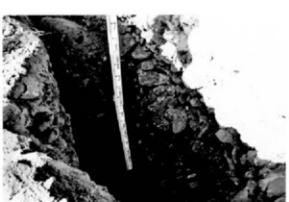
住宅建築に際し、道路面付近まで盛土（埋め土）されること、既存住宅の建築と撤去の際に地表下が深く乱されているとみられることから、その盛土ならびに攪乱土の中で工事が行われることが予想された。そこで、職員立ち会いのもとで工事を進めてもらうことにした。

工事に立ち会ったところ、既存住宅に関わる攪乱土の下が、河川により供給された礫層となり、遺構と遺物が残されている状態にないことを確認した。



第 80 図　調査位置図 (1/300)

図版 67　調査区全景



図版 68　掘削状況 (南東から)

21　上原城下町遺跡

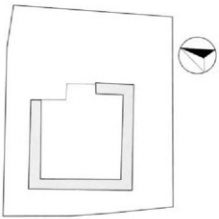
第 81 図　調査地点位置図 (1/5000)

遺跡番号　224-162
所 在 地　茅野市ちの字六勺 1214-2
調査原因　個人住宅
調査期間　平成 25 年 12 月 5 日
調査面積　20㎡
遺　構　なし
遺　物　なし

調査の概要　遺跡のほぼ中央に個人住宅が建築されることとなった。これに伴う基礎工事は、建物外周を幅 80cm、地表下 30 ～ 70 cmまで掘削する計画である。

事業地は盛土（埋め土）によって造成された土地である。工事の規模から考えて、この盛土の中で工事が行われることが予想された。そこで、職員立ち会いのもとで工事を進めてもらうことにした。

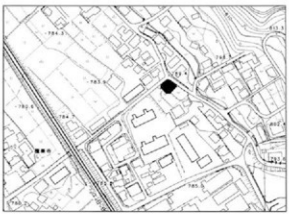
工事に立ち会ったところ、地盤補強のために他より深く掘削された南側の一部に、中世の土師質土器を含む黒色土層が露出した。この黒色土の性格を明らかにするため、事業者の承諾を得て、精査を行うことにした。土色・土質・硬さ、および遺物の遺存状態等から考えて、斜面に自然堆積した遺物包含層であろうとの結論に達した。



第 82 図　調査位置図 (1/300)

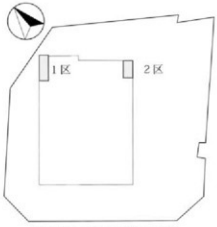
図版 69　基礎東辺 (南西から)

図版 70　基礎西辺 (南東から)



第 83 図　調査地点位置図 (1/5000)

遺跡番号　224-161
所 在 地　茅野市ちの字山ノ神 1035 番 1
調査原因　個人住宅
調査期間　平成 25 年 12 月 12 日
調査面積　3㎡
遺　構　なし
遺　物　なし



第 84 図　調査位置図 (1/300)

調査の概要　遺跡の東端に個人住宅が建築されることとなった。これに伴う基礎工事は、建物外周を幅 70cm、地表下 45cmまで掘削する計画である。事業地は盛土（埋め土）によって造成された土地である。工事の規模から考えて、この盛土の中で工事が行われることが予想された。そこで、職員立ち会いのもとで工事を進めてもらうことにした。

工事に立ち会った結果、予想どおり、盛土の中で工事が行われることを確認した。

図版 71　調査区全景

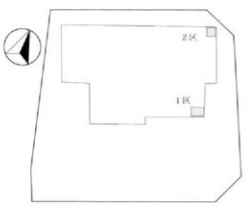
図版 71　調査風景

図版 72　1区（南東から）

図版 72　2区（北西から）

第 85 図　調査地点位置図 (1/5000)

遺跡番号　224-164
所 在 地　茅野市ちの字山ノ神 1037-1
調査原因　個人住宅
調査期間　平成 25 年 12 月 20 日
調査面積　2㎡
遺　構　なし
遺　物　なし



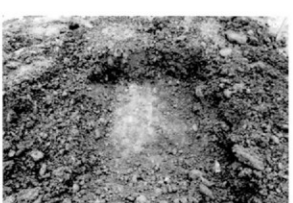
第 86 図　調査位置図 (1/300)

調査の概要　遺跡の東端に個人住宅が建築されることとなった。これに伴う基礎工事は、建物外周を幅 80㎝、地表下 35 ～ 45㎝まで掘削する計画である。

事業地は盛土（埋め土）によって造成された土地である。工事の規模から考えて、この盛土の中で工事が行われることが予想された。そこで、職員立ち会いのもとで工事を進めてもらうことにした。

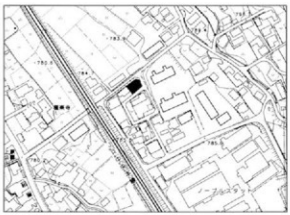
工事に立ち会った結果、予想どおり、盛土の中で工事が行われることを確認した。

図版 73　調査風景



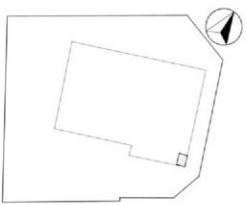
図版 74　1 区 (南西から)

図版 75　2 区 (南東から)



第 87 図　調査地点位置図 (1/5000)

遺跡番号　224-160
所 在 地　茅野市ちの字山の神 1020-6
調査原因　個人住宅
調査期間　平成 25 年 12 月 23 日
調査面積　2㎡
遺　　構　なし
遺　　物　なし



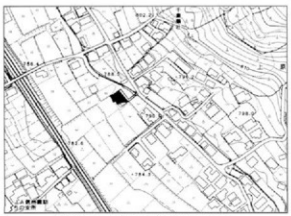
第 88 図　調査位置図 (1/300)

調査の概要　遺跡の南端にある個人住宅が建て替えられることとなった。これに伴う基礎工事は、建物の外周を幅 70㎝、地表下 45㎝まで掘削する計画である。盛土（埋め土）によって造成された土地であることに加え、既存住宅の建築および撤去の際に地表下が深く乱されていることが予想された。工事の規模から考えて、この盛土または撹乱土の中で工事が行われる可能性が高いと思われた。そこで、職員立ち会いのもとで工事を進めてもらうことにした。工事に立ち会った結果、予想どおり、盛土の中で工事が行われることを確認した。

図版 76　調査区全景

図版 77　掘削状況（南西から）

25　上原城下町遺跡

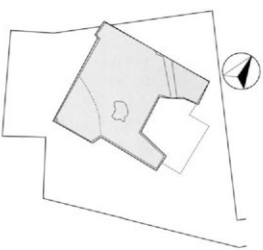


第 89 図　踏査地点位置図 (1/5000)

遺跡番号　224-166
所 在 地　茅野市ちの字原田 1134-3
調査原因　個人住宅
調査期間　平成 26 年 3 月 10 日～ 3 月 11 日
調査面積　70㎡
遺　　構　土坑 1
遺　　物　中世土師質土器 1、黒曜石 1

調査の概要　遺跡の中央、やや南寄りにある個人住宅が建て替えられることとなった。これに伴う基礎工事は、建築範囲全体を地表下 45 ～ 65㎝まで掘削する計画である。地山である黄色砂質土が地表面に散在する状況から、既存住宅の基礎を撤去する際に、地表下が深く乱されていることが予想された。掘削深度から考えて、この攪乱土の中で工事が行われる可能性が高いと思われた。そこで、職員の立ち会いのもとで工事を進めてもらうことにした。

工事に立ち会ったところ、南コーナーの一部を除き、地山に掘削が及ぶこととなった。事業者の承諾を得て調査を行った結果、北側断面に柱穴状の小さな落ち込み、建築範囲の中ほどにロームマウンドとみられる落ち込みを確認した。北側および西側の断面図を作成し、調査を終了した。



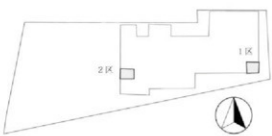
第 90 図　調査位置図 (1/300)

図版 78　調査区全景

図版 79　掘削状況 (北東から)

第 91 図　調査地点位置図 (1/5000)

遺跡番号　228-3
所 在 地　茅野市玉川粟沢 927-5
調査原因　個人住宅
調査期間　平成 26 年 1 月 10 日
調査面積　2㎡
遺　　構　なし
遺　　物　平安土師器 1



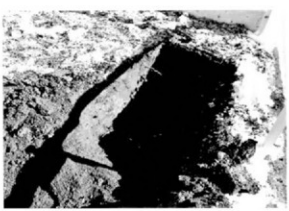
第 92 図　調査位置図 (1/300)

調査の概要　遺跡の南西端に個人住宅が建築されることとなった。これに伴う基礎工事は、建物の外周を幅 100 cm、地表下 50㎝まで掘削する計画である。事業者によると、事業地は耕作土（畑）を除去することなく、そのまま盛土（埋め土）をして造成された土地であるとのことである。工事の規模から考えて、その盛土または耕作土の中で工事が行われることが予想された。そこで、職員立ち会いのもとで工事を進めてもらうことにした。

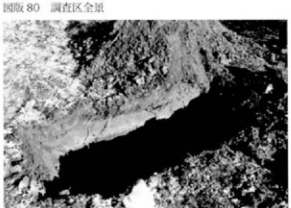
工事に立ち会った結果、予想どおり、盛土または耕作土の中で工事が行われることを確認した。

遺物は、平安時代土師器片を 1 点採集したのみである。

図版 80　調査区全景

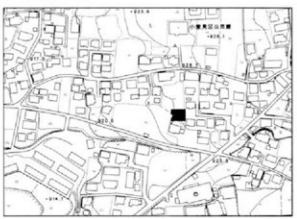


図版 81　1 区 (南西から)



図版 82　2 区 (南西から)

27　山田畑遺跡



第 93 図　調査地点位置図 (1/5000)

遺跡番号　245-5
所 在 地　茅野市玉川小堂見 3350-1
調査原因　個人住宅
調査期間　平成 25 年 6 月 24 日
調査面積　24㎡
遺　　構　なし
遺　　物　縄文土器 1、中世・近世土師質土器 1

遺跡の概要　八ヶ岳の西麓、東西に伸びる台地上に立地する。地籍は玉川地区小堂見である。遺跡の面積は約 5,000 ㎡、遺跡内の標高は 924 ～ 930 mを測る。

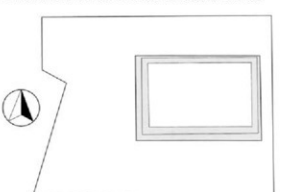
平成 3 年に遺跡登録された後、平成 13 年に台地の南側縁辺付近を東西に通じる市道改良工事に伴い、初めて発掘調査が行われた。その結果、縄文時代中期後半の集落遺跡であることが確認された。竪穴住居址は発見されなかったが、柱痕をもつ土坑、副葬品とみられるヒスイ製の垂れ飾りや大形土器片を伴う土坑、黒曜石製の剥片・砕片が廃棄された土坑など、あわせて 29 基発見された。墓坑とみられる土坑は数基あり、近接する位置関係にある。その状態からみて、台地の南側縁辺付近に墓域が設けられていた可能性が高い。当地域において、ヒスイ製品を伴う墓坑は、台地または扇状地の平坦部につくられた環状ないし馬蹄形を呈する中期後半の集落で、中央広場に接する墓域から発見されるのが通例である。こうした縄文集落と異なる形や構造の集落が、本遺跡につくられていた可能性が考えられる。

幅約 50 mの小さな谷を隔てた南側の台地に、縄文時代中期の拠点的な集落遺跡である藤塚遺跡が所在する。

調査の概要　遺跡の東端部に個人住宅が建築されることとなった。これに伴う基礎工事は、建物の外周を幅約 70㎝、地表下 80㎝まで掘削する計画である。事業地は、今年の冬に施工された宅地造成地の一区画である。

工事に先立ち、進入路を対象に試掘調査を行ったが、遺構と遺物はいっさい発見されなかった。このような調査の状況から、事業地下に遺構のある可能性が低いとみて、職員立ち会いのもとで工事を進めてもらうことにした。

すでに柱状改良がなされた後の調査であったが、工事に立ち会ったところ、地山である黄褐色土層および明黄褐色土層に掘削が及ぶこととなり、事業者の承諾を得て掘削面を精査することにした。調査の結果、木の根の撹乱が確認された以外に、落ち込みは確認されなかった。また、遺物は少なく、縄文土器と中世土師質土器が各 1 点、耕作土層および撹乱土から出土しただけである。こうした調査の結果からみて、本工事が遺跡に影響を及ぼすものでないと判断した。



第 94 図　調査位置図 (1/300)

図版 83　調査区全景

図版 84　作業風景

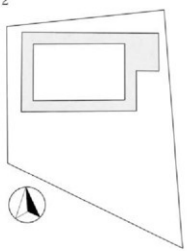
図版 85　掘削状況 1

図版 86　掘削状況 2

28　山田畑遺跡

第 95 図　調査地点位置図（1/5000）

遺跡番号　245-6
所 在 地　茅野市玉川小堂見 3350 番 5
調査原因　個人住宅
調査期間　平成 25 年 11 月 8 日～ 11 月 29 日
調査面積　32㎡
遺　　構　なし
遺　　物　縄文土器 2



第 96 図　調査位置図（1/300）

調査の概要　遺跡の東端に個人住宅が建築されることとなった。これに伴う基礎工事は、建物の外周を幅 90 ～ 270㎝、地表下 70㎝まで掘削する計画である。事業地は現況（耕作地：畑）を大きく変えることなく造成された土地である。

これに先立つ進入路建設範囲の試掘調査によって、事業地周辺は耕作土の厚い土地であることが確認されている。この耕作土の中で工事が行われる可能性があるとみて、職員立ち会いのもとで工事を進めてもらうことにした。

工事に立ち会ったところ、原地形の高い東側の一部に地山とみられる黒褐色土層が露出した。事業者の承諾を得て、掘削面を精査したが、遺構は検出されず、遺物も縄文土器が２点出土しただけであった。

図版 87　調査区全景

図版 88　調査状況

図版 89　作業風景

図版 80　掘削状況

報告書抄録

ふりがな	しないいせきはち
書　名	市内遺跡8
副書名	平成25年度 埋蔵文化財発掘調査報告書
巻　次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	小池浩史・小林深志・塩澤恭輔
編集機関	茅野市教育委員会
所在地	〒391−8501　長野県茅野市塚原二丁目6番地1号　℡0266−72−2101
発行年月日	西暦2015年3月28日

ふりがな 遺跡名	所在地	市町村コード 遺跡番号	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因	発見遺構 発見遺物
やまでら 山寺	茅野市豊平 1842番、1844番1 3350-9	20214 71	平成26年1月27日 ～ 2月5日	194	宅地造成	平安住居1 平安土師器1、須恵器1、中世土師質土器1、打製石斧1
いえした 家下	茅野市ちの 2574-2	20214 110	平成25年6月20日	2	個人住宅	
いえした 家下	茅野市ちの 2574-7	20214 110	平成25年6月20日	2	個人住宅	時期不明住居1
ふじづか 藤塚	茅野市玉川 3576番地1	20214 162	平成25年5月28日 ～	26	工場建設	縄文住居1 縄文土器88、石器6、黒曜石78
うまやすば 馬放場	茅野市玉川字高畑ケ尻 5931-100 茅野市玉川字高畑ケ尻 5930-500	20214 10	平成25年10月16日	10	店舗	加曜石1
とうどのおもうえ 堂殿沢上	茅野市玉川 御狩野5569	20214 197	平成25年10月24日 ～	185	太陽光発電	
かまい・あみだどう 構井・阿弥陀堂	茅野市塚原・上原	20214 222・223	平成25年12月20日 ～	50	広域下水道	平安住居2 土師器、須恵器
うえはらじょうかまち 上原城下町	茅野市ちの字諏訪小路 1357、1359	20214 224	平成25年8月9日	15	個人住宅・宅地	時期不明住居1 中世土師器土器10、時期不明土器2
なかむら 中村	茅野市宮川西茅野上地 区画整理区18番区3区	20214 323	平成28年3月24日	7	宅地造成	
みしゅうちこふん 未周知古墳	茅野市笠石 4256番地1	20214	平成25年4月16日 ～	29	墓地造成	円墳1 土師器、須恵器
やっかたけのうじょうさた 八ケ岳農場北	茅野市玉川 11401-1番地	20214	平成25年10月19日 ～	116	太陽光発電	
こまがた 駒形	茅野市米沢 字平出浦4979-1	20214 34	平成25年4月22日 ～	73	個人住宅・倉庫	縄文住居2、土坑多数 縄文土器・石器　整理箱4
やまでら 山寺	茅野市豊平 字山寺1809番2	20214 71	平成25年5月7日・ 5月20日	9	個人住宅	
いえした 家下	茅野市ちの 2583-2,3,4	20214 110	平成25年6月26日	50	個人住宅	弥生土器、古墳土師器7
まえみや 前宮	茅野市宮川 字前宮2055	20214 129	平成25年11月27日 ～ 12月11日	90	個人住宅	古墳住居1 縄文土器、古墳・平安土師器・須恵器、灰釉陶器、中世土師質土器、加曜石　整理箱1
うえのたいら 上の平	茅野市豊平 字上の平8873-5	20214 166	平成25年9月25日	1	個人住宅	
うえのたいら 上の平	茅野市豊平 字上の平8873-3・6	20214 166	平成25年10月15日	1	個人住宅	
うえのたいら 上の平	茅野市豊平 字上の平8873-2	20214 166	平成25年12月2日	10	個人住宅	
かまい・あみだどう 構井・阿弥陀堂	茅野市ちの 字町屋敷3406-1	20214 222・223	平成25年6月7日	3	個人住宅	
かまい・あみだどう 構井・阿弥陀堂	茅野市塚原 1丁目2486番1	20214 222・223	平成25年6月11日	4	個人住宅	
うえはらじょうかまち 上原城下町	茅野市ちの 字諏訪小路1379-1	20214 224	平成25年4月1日	8	個人住宅	

ふりがな 遺跡名	所在地	市町村コード 遺跡番号	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因	発見遺構 発見遺物
うえはらじょうかまち 上原城下町	茅野市ちの 字横沢1488-1	20214 224	平成25年5月16日	3	個人住宅	
うえはらじょうかまち 上原城下町	茅野市ちの 字播磨小路1334-15	20214 224	平成25年5月29日	2	個人住宅	
うえはらじょうかまち 上原城下町	茅野市ちの 字山井317-2	20214 224	平成25年6月6日	18	個人住宅増築	弥生土器、古墳・平安土師器・須恵器、中世土師質土器
うえはらじょうかまち 上原城下町	茅野市ちの上原 1265-2	20214 224	平成25年6月25日	75	個人住宅	竪穴状遺構1、土間状遺構1 古墳土師器、中世土師質土器3、灰釉陶器2、近世陶器4、黒曜石2
うえはらじょうかまち 上原城下町	茅野市ちの 片羽76番7,10	20214 224	平成25年6月25日 ～ 7月9日	94	個人住宅	古墳以降住居址9、溝1 弥生土器、古墳・平安土師器・須恵器2、黒曜石、石器、鳥形鐘2
うえはらじょうかまち 上原城下町	茅野市ちの 大町811	20214 224	平成25年7月1日	3	個人住宅	
うえはらじょうかまち 上原城下町	茅野市ちの 字播磨小路1379-2	20214 224	平成25年7月8日	2	個人住宅	
うえはらじょうかまち 上原城下町	茅野市ちの 字六勺1221-1	20214 224	平成25年7月20日	21	個人住宅	
うえはらじょうかまち 上原城下町	茅野市ちの 字六勺1205-1	20214 224	平成25年9月17日	27	個人住宅	
うえはらじょうかまち 上原城下町	茅野市ちの 字光明寺921-1	20214 224	平成25年10月11日	3	個人住宅	
うえはらじょうかまち 上原城下町	茅野市ちの 字六勺1222-2	20214 224	平成25年12月5日	20	個人住宅	
うえはらじょうかまち 上原城下町	茅野市ちの 山ノ神1035番1	20214 224	平成25年12月12日	3	個人住宅	
うえはらじょうかまち 上原城下町	茅野市ちの 字山ノ神1037-1	20214 224	平成25年12月20日	2	個人住宅	
うえはらじょうかまち 上原城下町	茅野市ちの 字山の神1020-6	20214 224	平成25年12月23日	2	個人住宅	
うえはらじょうかまち 上原城下町	茅野市ちの 字原田1134-3	20214 224	平成26年3月10日 ～	70	個人住宅	土坑1 中世土師質土器1、黒曜石1
あわざわじょうせき 泉沢城跡	茅野市玉川 麻沢927-5	20214 228	平成26年1月10日	2	個人住宅	平安土師器1
やまだばたけ 山田畑	茅野市玉川 小堂見3350-1	20214 245	平成25年6月24日	24	個人住宅	縄文土器1、中世・近世土師質土器1
やまだばたけ 山田畑	茅野市玉川 小堂見3350-5	20214 245	平成25年11月8日 ～	32	個人住宅	縄文土器2

市内遺跡 8

—平成 25 年度　埋蔵文化財発掘調査報告書—

平成 27 年 3 月 27 日　印刷
平成 27 年 3 月 31 日　発行

編集　茅野市教育委員会
発行　長野県茅野市塚原二丁目 6 番 1 号（0266）72-2101 代
印刷　永坂社印刷所
長野県茅野市塚原二丁目 12 番地 30 号